

目次

1. はじめに	
ハイパーネットワーク 2017 ワークショップを振り返って	1
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 主幹研究員 中内 美晶	
2. プログラム	3
3. 全体報告	7
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 主幹研究員 中内 美晶	
4 講師レポート	
・レポート① フューチャーセッションに登壇して	13
プラチナ構想ネットワーク 事務局長 保木 純	
・レポート② 大分を訪問して	15
徳島大学 大学院教授/地域創生センター長 吉田 敦也	
・レポート③ 共に「未来を紡ぐ」ために	19
立命館アジア太平洋大学 教育開発・学習支援センター 准教授 平井 達也	
5. 参加者レポート	
・レポート 地域おこし協力隊から見た地域とは	21
白杵市地域おこし協力隊 石橋 浩二	
6. 講演資料	
・レクチャー① プラチナ社会実現に向けた各地域の取り組み	23
・レクチャー② 地域の持続を創る参加共創型オープンイノベーションプラットフォーム 徳島大学フューチャーセンターA.BA	25
・フューチャーセッション	42
7. 参考資料	47

■はじめに

ハイパーネットワークワークショップ 2017 を振り返って

公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

主幹研究員 中内 美晶

ハイパーネットワークワークショップは、ハイパーネットワーク社会研究所設立の1993年以来ほぼ隔年で実施しており、今回で17回目の開催となります。

当初は広い意味での情報社会の課題や可能性を議論するスタイルから、近年は、<共生プログラミング>というテーマでサービスをつくる「ラピッド・プロトタイピングWS」や、大規模災害が発生したことを想定し、よりリアルな環境・シナリオに基づいての「災害時の情報伝達訓練WS」、<アート>が情報社会の進展とどのような関係があるのか？アートとコンピューターの歴史を紐解き、実際にアート作品制作を交えた「アートの考え方WS」など、テーマは多岐も渡り、議論だけでなく体験型のワークショップにシフトしています。

ハイパーネットワーク社会研究所は、人口減少・高齢化や地域の活力低下等の様々な地域が抱える問題への対応を、産官学民の連携（横串）体制で取り組む【地域ネットワーク型コミュニティ研究会】を今年度より立ち上げ活動しています。今回のワークショップは、その研究会活動と相互に資するものにしたと考え、企画しました。

地域が抱える問題（課題）は、地理的・人的・歴史的な要因が複雑に絡み合い、当事者や専門家だけでは解決することが難しくなっています。

このような複雑な問題への解決アプローチとして、多様な関係者（ステークホルダー）が、未来志向で「新しい関係性」と「新しいアイデア」を創り出し、協力してアクションを起こせる状況を生み出す（「新たな価値」の創造の場）【フューチャーセンター】が注目を浴び、広がりをみせています。

フューチャーセンターは、継続的な活動を通じて関

係性やアイデア、アクションプランを練っていくのですが、【フューチャーセンター】とそこで行われる【フューチャーセッション】のエッセンスを感じてもらい、参加者各自の次の「未来を紡ぐ」アクションに繋げてもらえればという想いでプログラムを展開しました。

第1部はレクチャーとして、プラチナ構想ネットワークの保木さんと徳島大学の吉田先生に講演をいただきました。

保木さんからは、プラチナ構想ネットワークが目指す社会【プラチナ社会】の説明と、その実現に向けた活動や活発に活動している各地域の取り組みを紹介してもらいました。具体的には、豊岡市（兵庫県）・ニセコ町（北海道）の観光への取り組み、養父市（兵庫県）の耕作放棄地再生の取り組み、石川県と企業との地元林業の地産地消循環サイクルの取り組み、久山町（福岡県）と九州大学の医療連携の取り組みを紹介いただきました。

プラチナ構想ネットワークの役割は、プラチナ社会のビジョンをキーにして、各地域の取り組みを見える化、連携、統合しながらコミュニティを形成していくとのことで、当研究所の研究会活動とも連携させてもらいたいと思っています。



吉田先生からは、全米で最も住みやすく環境にやさしい、かつクリエイティブな街といわれているポートランド（米国オレゴン州）との出会いから、ポートランドの取り組みやその魅力、徳島大学でフューチャーセンターを設立した経緯や活動内容等の話をいただきました。

ポートランドの話、フューチャーセンターの話、どれも内容が濃く、かつ刺激的な話の連続で、目から鱗が落ち続けました。漠然と現状のままで満足するのではなく、常に未来に向けての行動を起こさないといけないことを強く感じ、また、行動を起こすことでしか自分の未来や地域の未来をつくる（紡ぐ）ことはできないことを再認識させてもらいました。

吉田先生の講演の中で、随所に「場」（雰囲気）づくりの工夫が感じられました。講演前に参加者と一緒にセルフイー（自撮り）、参加者を前に移動させて自然に周囲とコミュニケーションをとりやすくする基盤づくり、ユーモアを織り交ぜたメリハリのある話術等々とても参考になりました。



第2部は、実際にフューチャーセッションを体験してもらおうと、立命館アジア太平洋大学（APU）の平井先生のファシリテートをお願いし、「自分たちの住む地域の未来をどうやって紡いでいくか」をテーマに進めていきました。

6名のグループで、ハイポイントインタビューの手法で「私たちが住む地域の魅力を再発見」し、未来編集会議と題して模造紙に「私たちの地域の理想の未来を描き」、共感する人同士でグループを編成しなおして「理想の地域を実現方法」を考えていきました。

参加者からは、「普段話さない年代の人と話せて楽しかった」「とてもよい刺激をもらった」の感想が多く、中でも「未来を具体的に考えることは難しいと思っていたが、実はそんなに難しいものじゃないんだなと感じた」という企画者として非常に嬉しい感想ももらいました。

時間の関係上、具体的なアクションに落とし込むこ

とは難しかったのですが、フューチャーセッションのエッセンスを感じてもらえ、次のアクションに繋がるきっかけに少しでも寄与できたのではないかと感じています。



今回のワークショップでは、特に会場の雰囲気づくりに注力しました。年代や職種等バックボーンの違う多様な人達が集って、限られた時間の中でセッションを行うので、できるだけリラックスできるように会場には音楽を流し、観葉植物の設置し、コーヒー等の飲み物とお菓子を用意して飲食しながらの進行、椅子と座布団を配って好きな場所で話を聞けるようなフリーレイアウト等細かい点に配慮しました。



私にとってハイパーネットワークワークショップの企画から実践まで行うことは初めての経験で、試行錯誤の連続でした。その企画に賛同・協力・アドバイスいただいた方、実行に向けて助力いただいた方、特に多忙なところ講演いただいた保木さん、吉田先生、ファシリテーターを引き受けていただいた平井先生に深謝します。また、広い理解をいただいた実行委員会のメンバーである大分県（情報政策課）、NTT西日本、日本電気、富士通の皆様にも厚くお礼申し上げます。



ハイパーネットワーク2017ワークショップ プログラム

私たちの地域の未来を紡ぐ

フューチャー
セッション

開催日時 2017年1月13日 (金) 9:30-16:30
会場 大分県消費生活・男女共同参画プラザ

主催：ハイパーネットワークワークショップ実行委員会
大分県 NTT西日本 大分支店 日本電気株式会社 富士通株式会社
(公財)ハイパーネットワーク社会研究所

協賛：ネットワンシステムズ株式会社

プログラム

オープニング

9:30-9:35

第1部 レクチャー

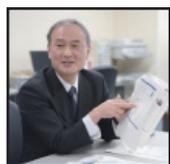
9:35-10:50

■レクチャー① プラチナ社会実現に向けた各地域の取り組み スピーカー：プラチナ構想ネットワーク 事務局長 保木 純



エコで高齢者も参加でき、地域で人が育ち、雇用のある、快適な社会を目指したワンランク上のまちづくりを進める全国規模の産学官連携組織。
プラチナ構想実現のための政策的課題の解決策を政界、産業界、市民に発信し、動きを促すことを目的として活動中。

■レクチャー② 地域の持続を創る参加共創型オープンイノベーションプラットフォーム 徳島大学フューチャーセンターA.BA スピーカー：徳島大学 大学院教授/地域創生センター長 吉田 敦也



徳島大学に国立大学初のフューチャーセンターを設立し、新しいアプローチで社会課題解決のイノベーションプラットフォームを提供。徳島を中心に対話による地域の未来づくりに向けたフューチャーセッションを多数企画、実践している。
全米で最も環境に優しく住みやすい都市とも言われ、市民参加による街づくりで成功し、世界的に注目を集めるポートランドの街づくりや取り組みを研究。

休憩

10:50-11:00

第2部 フューチャーセッション 11:00-16:20

ファシリテータ：立命館アジア太平洋大学 准教授 平井 達也



専門分野は、キャリア教育・リーダーシップ教育・国際教育・ポジティブ心理学など。心理学や組織開発などの知見を活用しながら、大学や企業、地域などを対象にエンパワーメントをテーマとしたプログラム開発やファシリテーションも行っている。

クロージング

16:20-16:30

ネットワーキングパーティー

17:00-

場 所：nando H.W.L takemachi (ナンドホール竹町) 大分市中央町3丁目6-11 キムラヤビル2F
会 費：3,500円



事務局 (公財)ハイパーネットワーク社会研究所

〒870-0037 大分市東春日町51-6
Tel. 097-537-8180

Web <http://www.hyper.or.jp/ws2017>
E-mail ws2017@hyper.or.jp

■全体報告

ハイパーネットワークワークショップ 2017 全体報告

公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

主幹研究員 中内 美晶

◆概要

人口減少・高齢化や都市部への人口流出、地域の活力低下等の地域が抱える問題は、地理的、人的、歴史的な要因が複雑に絡み合い、当事者や専門家だけでは解決することが難しくなっています。

このような複雑な問題への解決のアプローチとして、多様なステークホルダーが、未来志向で「新しい関係性」と「新しいアイデア」を創り出し、協力してアクションを起こせる状況を生み出す（「新たな価値」の創造の場）「フューチャーセッション」が注目を浴び、広がりを見せています。

今回で、17回目を迎えたハイパーネットワークワークショップでは、地域を構成する市民・企業・教育機関・自治体・NPO等の多様なステークホルダーが、地域の複雑な問題に対し、未来志向で対話の中から解決の糸口を探る、「フューチャーセッション」のエッセンスを取り入れながら、私たちの地域の未来について一緒に実践的な議論を展開しました。

◆内容

テーマ：私たちの地域の未来を紡ぐ

フューチャーセッション

日時：2017年1月13日(金) 9:30～16:30

会場：大分県消費生活・男女共同参画プラザ

参加者：66名（内訳：一般参加者55名、
講師・来賓4名、スタッフ7名）

主催：ハイパーネットワークワークショップ実行委員会
大分県、NTT西日本大分支店、
日本電気株式会社、富士通株式会社、
公益財団法人ハイパーネットワーク社会
研究所

協賛：ネットワンシステムズ株式会社

◆プログラム

■オープニング 9:30～
・オリエンテーション

■第1部 レクチャー 9:35～

○レクチャー①

【プラチナ社会実現に向けた各地域の取り組み】

スピーカー：プラチナ構想ネットワーク 事務局長
保木 純 氏

○レクチャー②

【地域の持続を創る参加共創型

オープンイノベーションプラットフォーム
徳島大学フューチャーセンターA.BA】

スピーカー：徳島大学 大学院教授/地域創生センター長
吉田 敦也 氏

■第2部 フューチャーセッション 11:00～

ファシリテータ：立命館アジア太平洋大学 准教授
平井 達也

○構成

6人/グループ構成でのグループワークを実施

○手順

1 アイスブレイク

・自己紹介、居住地のお気に入り場所とその理由、
昨年嬉しかったこと、今年やってみたいこと 等

2 地域の魅力を再発見する

～ ハイポイントインタビュー ～

・自分が住んでいる地域での心に残る体験について
振り返り、地域の魅力を再発見することが目的

・2人1組で相互にインタビューを実施

・グループメンバーの想いやアイデアを付箋に整理

3 理想の地域の姿を描く

- ・自分が住む地域が魅力を最大限に発揮している状態をイメージし、グループ内で共有
- ・グループで、2030年に理想の地域の素晴らしさが紹介された新聞の一面を模造紙に作成
- ・各自の理想の地域実現のための活動を考え、参加者全体（グループを超えて）で、同様な意見やコラボレーションできそうなもの等で再グルーピング

4 理想の地域を実現するための行動計画

- ・一緒に集まったアイデア（理想の地域を実現する工夫や活動、プロジェクト）についてのディスカッション
- ・グループ内で出て来たアイデアを模造紙に記入

5 成果発表

グループ	実現方法
1	LINE を利用したイベント紹介
2	バスの自動運転によるエリア拡大
3	子供から高齢者まで誰でもいつでも学べるコミュニティベース
4	教育イノベーション
5	大分県在住者限定のサービス (大分県内を知る)
6	ネットワークづくり（お見合い）
7	新たなコミュニティづくり

■クロージング 16:20～

■ネットワーキングパーティー 17:00～

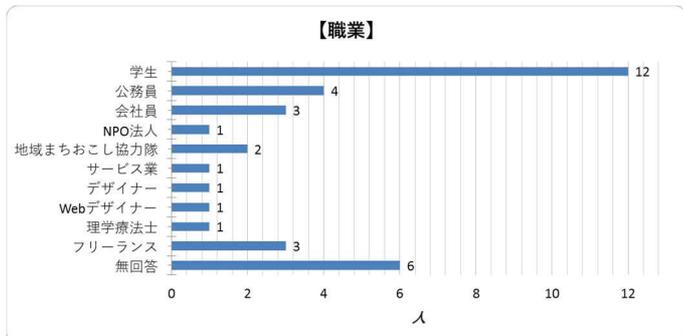
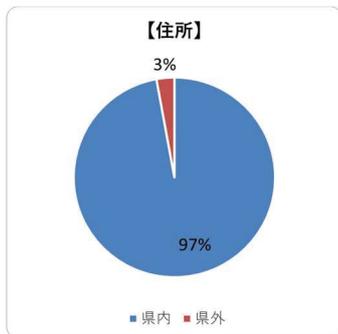
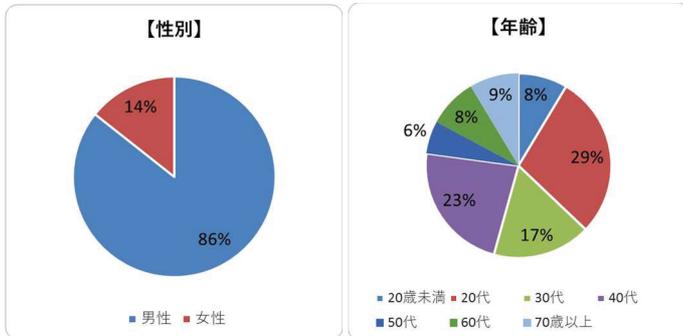
nando H.W.L takemachi（ナンドホール竹町）

大分市中央町3丁目6-11 キムラヤビル2F

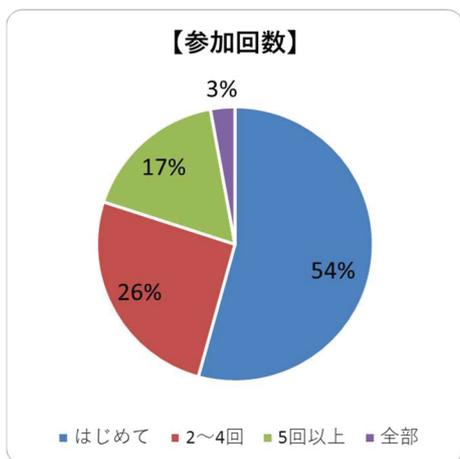
◆アンケート結果

- ①参加者：55名
- ②有効回答数：35
- ③アンケート回収率：63.6% (②/①)

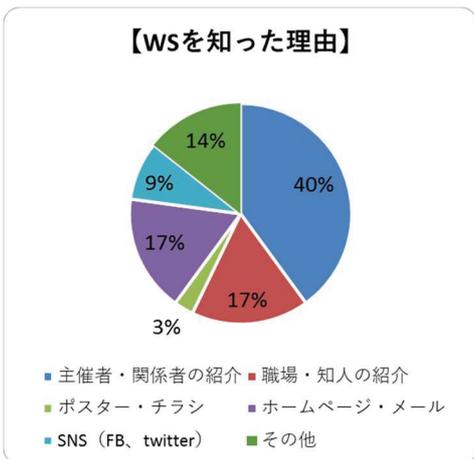
(1)参加者について (性別、年齢、住所、職業)



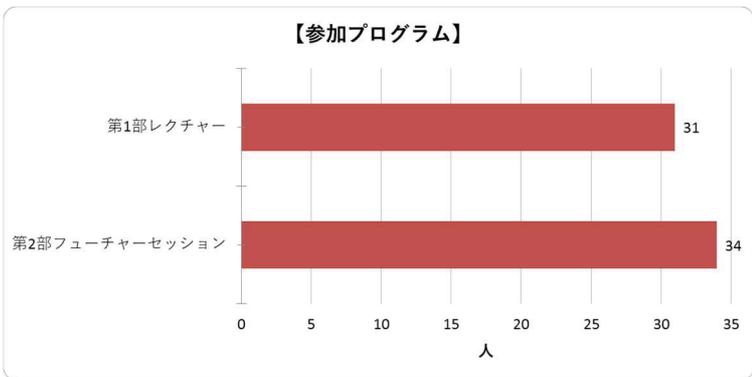
(2)参加回数



(3)ワークショップ 2017 を知ったきっかけ



(4)参加したプログラム



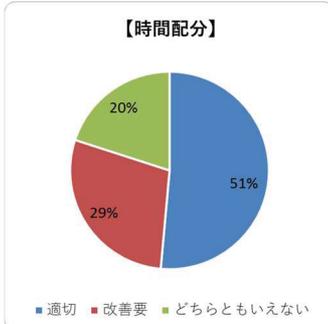
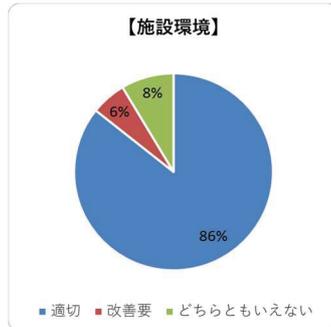
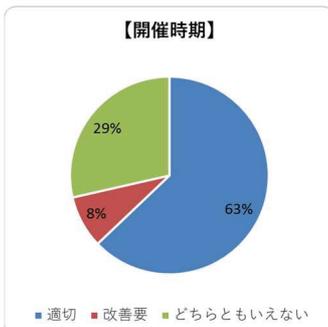
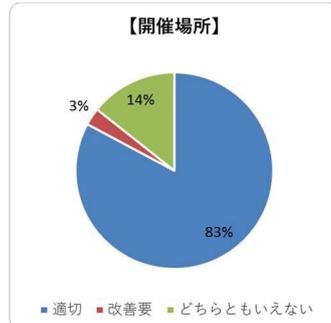
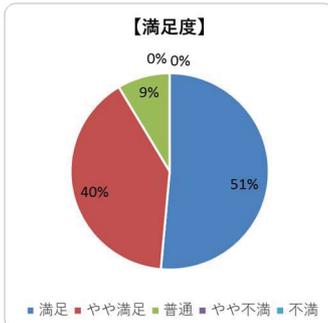
(5)参加理由(期待したこと)抜粋 ※原文のまま

- ・住んでいる人がどんなことを課題だと感じているのか。どうしたら解決できると考えているか、色んな人の考えをすることができる機会として。
- ・立場の違う方とのセッションで自己の成長を図りたかった
- ・自分より年上の現役世代の方と話がしたかったから。
- ・「地域をよく知る人」ということで県からの依頼を頂いて。自分やチームの未来につながるヒントがあると思ったから
- ・授業の一環として
- ・お誘いいただいたため。
- ・社会にでるうえで大切なことを身につけられると思ったから。
- ・様々な人との意見交換
- ・まちづくりの新しいアイデアについて考えたいから
- ・内容が地域を作る、地域を創造する事だったから
- ・地域課題の洗い出し
- ・学校の授業の一環
- ・担任からの紹介
- ・今、私が抱えている夢の参考に
- ・ネットワーク構築の手法を学ぶため
- ・新たな知見、情報収集。異業種の方と接することで考え方を少しでも外向きにしたい
- ・地元で若い人たちの[お見合い仲介ボランティア]を行っています。そこで人と人とのつながりを広げて、相手を探すことを考えています。これは個人で行っているのでも人を知り、ネットに広げたい。
- ・地域と協働した、地域のための活動に取り組みたいから
- ・新しい議論の手法を学びたかった
- ・何が生まれるか興味があった

- ・初めてなので
- ・学校から
- ・地域の未来づくりに参加してみたかった。どんな人達がどんな問題意識をもっているのか知りたかった
- ・交流と学び
- ・他業種の方々と地域課題について話がしてみたかった
- ・面白そうだったので
- ・担任の先生から言われて参加しました
- ・IT 関係を利用した地域社会
- ・機会づくり
- ・町づくりに関心がある

- ・最後にやった発表が終わったあとは達成感があった。
- ・若い人の素直な意見
- ・ポートランドの街づくりの先進性
- ・今日考えたことを実際にやってみてみたいと思いました。
- ・ポートランドの町作り
- ・まとめ役、発表者等、役割がとてもスムーズに皆さん引き受けて、積極的な方々ばかりが集まっている感じでした。
- ・最後の話し合いが一番楽しかった
- ・フューチャーセンター
- ・吉田先生のお話がとても面白かったです。大変刺激になりました。
- ・大分中心街に駐輪場を拡充してほしいという記事を投稿しました。いつも 30 分かけて中央町に昼食に出ていますが、管理人と言い争っています。そこで、アメリカの喫茶店の前に駐輪場が沢山あることです。
- ・吉田先生の話で、企業からはイノベーションは起きない！！
- ・フューチャーセッションの時間がやや少なかった
- ・参加者が元気
- ・世代が混在していて良い
- ・幅広い職や年齢の人と話せた
- ・最後のワークが良かった
- ・ポートランドの事例
- ・同じ思いの人たちと共有できてよかったと思います
- ・ワークショップでみんなで新聞を作ったこと、吉田先生のお話
- ・第 2 部の自己紹介の所が楽しかったです。
- ・アメリカのコンパクトシティがとても印象的でした
- ・フューチャーセッションでのワークショップ
- ・内容を詰める話の時間が不足した

(6) 感想



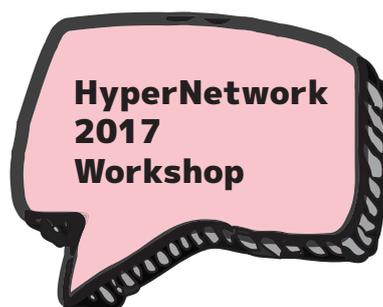
(8) 意見・感想・要望等 抜粋 ※原文のまま

- ・フューチャーセッションでもう少し具体的な解決策の検討までできるともっと面白くなった気がします、いろんな世代の人たちが集まると、課題に感じていることも全然違ったりして、面白かったです。お疲れさまでした。
- ・短い時間でアイデアを出して発表までを体験する事ができ成長につながる事ができそうでした。
- ・また、機会があれば参加したい
- ・有意義な会話を交わすことができ大満足でした。ありがとうございました。
- ・新たな方々と知り合えて良かったです。
- ・同じ志を持った人との出会いの場としては成功。午後のプログラムについては、改善が要る。
- ・地域の活性化のために良い議論をすることができました。
- ・またやって欲し～
- ・たのしかったです。
- ・ワークショップ中心であり、色々な方と交流でき良かった。大分が好きなので、このような会で考えたことが実現されることを願っています。ありがとうございました。
- ・社会人の方と話ができて楽しかった
- ・じっくり考え、じっくり話せる場も欲しかった。年寄りには少しあわただしかった。
- ・講義の時間が短すぎる
- ・熱い思いをもった方とのワークは、直接仕事に活かされなくても、良い刺激になるなあと思います。ありがとうございました。
- ・大分市の発展のために中心商店街を子供、老人が対話よくするためには「日本一美しい街づくり」ではなく、「日本一住みやすい街づくり」に変更すべきで今日の駐輪場拡充案の実施を！
- ・大変勉強になりました。

(7) 最も印象に残ったこと 抜粋 ※原文のまま

- ・ポートランドの街の様子。道路という何気ないインフラを市民が楽しめる場所として使われていること。フューチャーセッション内で議論されたことで、人が大分の資源であるというのが、多くの人の認識となっていたところ。
- ・レクチャーの時にポートランドの話聞き、とても素晴らしい町だと感じました。
- ・社会人やたくさんの方の意見が聞けてとても勉強になった。一緒にグループを組んだ人がリードしてくれる人で、安心して自分の意見を述べる事ができてよかった。
- ・吉田先生のポートランドのお話。WS の進め方がとても参考になった。
- ・吉田先生のお話全体的に
- ・大人の方たちと話し合う機会があまりないので良い経験になりました。

- ・継続すると良いと思います
- ・良い時間になりました
- ・又、参加したいです
- ・目から鱗でした。又、機会があれば参加したいです
- ・もう少し NPO 活動されている方が参加されてれば良かった
- ・昼休みがもう少し時間があれば良かったです。
- ・楽しかったです。ありがとうございます。
- ・特にないです
- ・地域復興には様々な方法があるのだと思いました



■講師レポート①



フューチャーセッションに登壇して

プラチナ構想ネットワーク

事務局長 保木 純

狭くなった日本と世界

2017年1月12日、15:00前に東京の職場を出発し、17:30大分空港に到着、19:00過ぎには、大分市内某所でおいしいお肉をいただいております。「アツという間に」と言いたいところですが、飛行機が苦手なもので、なが〜く感じた、というのがホンネです。

とはいえ、国内都市間の移動は大概3〜4時間以内ですね。レンタカーもホテルもネットで予約して、着けば「お待ちしております」。車も部屋もバッチリ準備。移動も情報のやりとりも自由、ありがたい時代です。

ちなみに、夕食をご一緒した韓国の博士に伺ったら、「韓国からは、もっと近いですよ〜」。

日本も世界も広くて狭いです。

プロに学ぶ

ご講演の吉田先生、さすがでした。のっけから会場の皆さんのハートを一気にわしづかみ、入りが違いますね。私が作ってしまったマツタリとしつつもカチカチの会場の雰囲気を一変させてくださいました。

ご紹介いただいたポートランド、市民パワーで高速道路を撤去して“グリーンシティ路線”に舵を切って約半世紀。「半世紀かあ・・・」とため息も出そうですが、今ならどうでしょう？

環境共生、コンパクトシティ、反モータリゼーションなんて、当時は猛烈な“逆風”でしたよね、きっと。ところがいまは“順風”そのものです。

私の正体は、自治体職員、そしてその自治体に住む市民でもあります。残りの公務員人生、「ポート

ランドに学ぶ、ポートランドに倣う」をライフワークにしようかな。

かつて、人事課に在籍し職員研修なども担当しました。外部講師を招いたり、自分も登壇したりしましたが、今回、平井先生のファシリテーションを拝見して、アイスブレイキングや相互インタビューを通じた“絆づくり”の重要性を実感。

参加者の皆さんの表情が一気にやわらいで、会場の雰囲気が一変しました。メインのディスカッションと同等に、周到な準備が必要ですね。

場を作ること、伝えること、人を繋げること、お二人のプロに学ばせていただきました。

地方創生

地域をどう創るか、どう再生するか、長くお上が主導して来た一大事業、急に地域に預けられた（どうしようもなくなって放り出された？）感じですが、高齢化、少子化、人口減、というあまりに大きな課題と地域づくりという未知の壮大な作業などへの不安が大きく、なかなかマインドが前に向かないのが実情ではないでしょうか？

「素晴らしい地域資源をお持ちですね」「活かさないともったいないですよ」

簡単に言うけど、簡単じゃない。各地の事例を見て、お話を聞いて痛感です。

地域資源が、食べていけるビジネスに結びつかないことには人は定着しませんし、持続するビジネスって簡単に作れるものではない。補助金やボランティア頼みでは一過性。

交通網、情報網の発達で日本も世界も狭くなった分、没個性、どこも同じ顔になりがち。それを手作

りで「オンリーワン」に仕立て上げるのは時間も労力もかかります。

ただ、地域の課題やその解決法、地域が輝くための方法を一番熟知しているのは、その地域の住民です。やっぱり、地域づくりは住民、自治体、企業、学会が一体となって主導するのが正解、それしかないのだと思います。

では、「どうやって？」

今回のようなワークショップで人のつながりを作り、小さくてもよいから有志がモデルを作って見せていくこと、目覚めを喚起して同調する人を増やすこと、これが1つの糸口なのでしょうね。地道な取り組みが一番の近道だと思います。

生まれたつながりを SNS で維持・拡大するというのも有効ではないでしょうか？ 今回のセッションの LINE グループや FB ページが立ち上がったなら、是非仲間に入れてください。

後に「大分はあのセッションから始まった」と語り草になるよう、今後の展開に期待いたします。

プラチナ社会

私たちが取り組む「プラチナ社会づくり」。これまでに勝ち得た、長寿や経済的豊かさを維持しながら、ビジネスを通して諸課題を解決し、質的満足をも手に入れようとするものです。

現在、懸命に形成普及や人材育成に取り組み、また、小さいながらもモデル作り（=実装）を進めています。

そんな中、毎年、自治体や企業による地域課題解決の取り組みを表彰する「プラチナ大賞」を開催しています。

昨年10月の第4回目までに延べ212団体から293のご応募をいただき、39の取り組みを表彰させていただきました。

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou/award.html>

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2016/ceremony.html>

自らの手で地域を変えていこうという方々が、こんなにもたくさんおられるということ、これまた役所を出て、初めて知りました

結び

大分で始まろうとしている取り組みは、プラチナ社会づくりと軌を一にするもの、ぜひ応援させていただきつつ、有望なモデルとして発信させていただきたいと思います。

今回は、拙いながらもプラチナ社会とその事例についてお話する機会をいただき、また多くの方との出会い、知見とのふれあいもあり、私ばかりがオイシイ思いをして大変恐縮です。

お招きいただきましたハイパーネットワーク社会研究所の皆様、本当にありがとうございました。



おまけ

「すべての道が両子山に向かっている！」

不思議な地形図に魅せられ、帰りがけに、ちょっと足を延ばして国東半島のど真ん中、両子寺に立ち寄らせていただきました。南国ムードいっぱいの別府湾の景色に別れを告げ、山道に入ると雰囲気は一変。道すがらの山間集落は、静かで時間が止まったよう。「どこまで行くのだろう」と思い始めたところで到着。

境内から奥の院まで、ゆっくりと歩を進めました（というか、階段が急でゆっくり行くしか・・・）。霊験あらたか、とはまさにこのこと、森のマイナスイオンパワーをたっぷり浴びて、苦手な飛行機では、精いっぱいの「平気な顔」を作って東京へ帰りました。

■講師レポート②



大分を訪問して

徳島大学 大学院教授／地域創生センター長

吉田 敦也

大分を訪問して3つのことが印象に残った。ひとつは、大分駅に着いて「あっ！」と思ったことだ。それはいかにも和風なのだけど記号性が高く、まるで、ヨーロッパか北米を訪問したかのような気持ちになった。専門とする研究領域が「ヒューマンインタフェースデザイン」というもので、人が機械や電子でバイスを使う時の操作感やわかりやすさ、あるいは、人と人をつなぐための情報システムのマニュアルレスナビゲーションなどの評価。特に、その昔「街角のインターフェース」というSIGをニフティのフォーラムで運営していたので、どこへ行ってもこんなところに目が行く。コンセプトデザイン、利用者中心主義、アイデンティティ形成の独自のフォントづくりなど「大分駅はグローバル社会に進出してもやっていけるポテンシャルを持っているなあ」と嬉しくなった。具体的にどんどころか、第一はトイレ。



大分駅トイレ

まるで銭湯！みたいなメッセージを発して、それ自体をどう評価するかは別にして、思わず足を止めて、写真を取った。次は、ぶんぶん号。



ぶんぶん号

シビックプライドの匂いを感じた。誇り、自信はまちづくりの根本。好感がもてる。そして「豊後におさき市場」のネーミング。



豊後におさき市場

広場的で良い。ショッピング空間がもしも広場的だったらカンペキだったが、多くは望まないのが旅人の心得。何事もプラス評価でGO！だ。



大分駅

さて、この大分訪問は、ハイパーネットワーク社会研究所のワークショップに招かれてのことだった。そこで心に残ったことが2つ目のことだ。そこにはさらにふたつのことがあり、ひとつが私の大失敗。もうひとつがハイパーネットワーク社会研究所のゲインが見てとれたこと。

私の失敗から言うと、いろいろ迷ったあげくネクタイを締めていったことだ。ナリフリ構わない質でそれはそれでよかったのだけど、研究所の中内さんが「なんてカッコしてるん？」と言わんばかりの服装だったので、自分の失敗に気づいた。この集まりは「フューチャーセッション」。それは異次元を仕立てのひとつにしている。だからこそネクタイを締めて行ったのだけど、「だけどそうなら蝶ネクタイでしょ！」と中内さんの姿は語っていた。以来、私はフューチャーセンターのドレスコードに「A.BA」（徳島大学フューチャーセンターの愛称）というのを追加した。そして中内さんを「リバースマンター」と勝手に命名した。



一方の「ハイパーネットワーク研究所の大きなゲイン」とは！？ それはフューチャーセッションを見事にやってのけたことだ。特に、研究所の未来をつくるステークホルダーを集めた。これを持続させ、エコシステムに成長させたら、イノベーションを起せる。

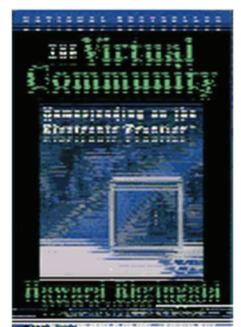
最後は「温泉フューチャーセンター」のススメだ。集まった人達を見て、すぐやればすぐ当たるのではないかと思う。断言はできないが、事実、UDSという会社は「まちづくりリーグ」「ホテル経営リーグ」といった業種に特化したコワーキングスペースをデザインしてコラボ運営しているのだが、そこがつい最近「インバウンドリーグ」というインバウンド事業者のためのコワーキングスペースを東京新宿にオープンさせた。代表取締役の中川敬文さんを知って

いるので「やるう〜」ってとこだけど、指をくわえている必要はない。すぐさま「温泉フューチャーセンター」をやったらい。 (もちろんヤルときは声かけてネ)。

提案理由は3つ。ひとつは、会場に、別府温泉をなんとかしたい！という人がいた。なら「何とかしたらい」。

ふたつ目は、近隣地区から地域おこし協力隊のような人が集まってきていたからだ。それこそが資産であり資源である。メディア関係の人もいた。自治体の人もいた。別府温泉のことを別府温泉の内輪で考えてもイノベーションは起こりにくい。だからといってコンサルを呼んできてもうまくいかない。直接関係なくても、多様な人が、つながりを土台に集まり、共通テーマとして、別府温泉のことを考える「場」をつくるのがキーポイントとなる。そこで時間を共にし、情報を共有し、問題を整理し、衝突を恐れず、しかしプラス思考で、デザインに向かうことが「地域の力」となる。自分自身の問題解決につながる。イノベーションの原理、デザイン思考の基本だ。近隣、類似業種、異分野の人が、立場を越えて、別府温泉物語 2.0 づくりにホンキになる。それを「自分事」と呼ぶ。小さくていい、なんらかの成功を導くことを目標とする。

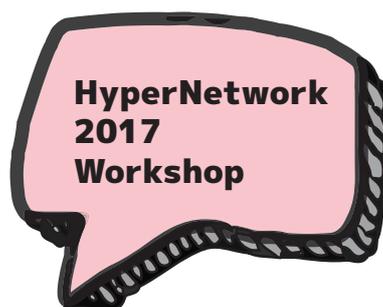
3つ目は、会場に集まったほとんどの人はフューチャーセンターを誤解していた。誤解して当然でもちろん構わない。でも「フューチャーセッション」と「フューチャーセンター」はまったく異なる。フューチャーセッションをやっても未来が来るとは限らない。フューチャーセンターを正しくやるとイノベーションが起こり、未来が見える。



<http://www.rheingold.com/vc/book/6.html>

昔話はトシのせいだが、ハイパーネットワーク社会研究所のことは創設の頃から知っていた。ハイパーネットワークとはまさに今のWWWのことで時代を先取っていた。当時、私は、富士通ハビタットのアバターについて研究していて、ハイパーネットワーク社会研究所と関係の深いサイエンスジャーナリストのハワード・ラインゴールドが著書「バーチャル・コミュニティ」の中で私の論文を引用していたりしていた。そのハイパーネットワーク社会研究所がこのような方向へ舵を切り出し、イノベーションプラットフォームになろうとしている。その現場に立ち会えたことは感慨深い。偶然とは思えない何かを感じてこの原稿を書かせてもらった。





■講師レポート③



共に「未来を紡ぐ」ために

立命館アジア太平洋大学 教育開発・学習支援センター

准教授 平井 達也

「私たちは共に未来を創ることができる」と実感できる機会を創りたい。そう思ったのが Future Session を始めた私のきっかけです。

私の専門の一つはキャリア教育なのですが、キャリアプランニングのワークショップや授業を通して、自分の内側からの大切にしたい興味や想い、価値観をベースに将来を描き、それに向かって主体的に行動を起こしていく。そんなプロセスをこれまで目にして来た私は、「これは個人の未来を創るだけでなく、地域や社会の未来を共に創ることに応用できるのではないか」と考えるようになりました。

そこで、自分の専門の1つであるポジティブ心理学をベースに、社会変革の1アプローチである Future Session と組織変革の1アプローチである AI(Appreciative Inquiry)を組み合わせて、「共に未来を創る」アプローチの実践と研究を、ここ数年続けて来ました。

およそ2年前に、APU 卒業生、在校生、職員、教員の4者を集めて、APU の未来のビジョンを描くというワークショップを企画した際には、異なる立場の人々がお互いの経験や知恵を持ち寄ることで生まれる、「みんなで未来を作ろうという強いエネルギーと明るい希望の感覚」を体感することができました。

そこで今回、「地域の未来を紡ぐ」というテーマで、Future Session 実施の依頼を受けたときに、楽しみながら「自分たちの住む地域の未来を私たちが創って行きたい！」と思えるワークショップにしたいと考えました。そのためには、まず私たちの住む地域の魅力を再発見することが大切。ハイポイントインタビューという技法を使って、お互いがペアで「自分が住んでいる地域での心に残る体験」を語り

合い、自分の地域の魅力を実感してもらうセッションを行いました。その後、6人1組で自分のパートナーのエピソードを紹介してもらい、グループで「私たちが元気にしてくれる地域の魅力」のキーワードを探し、模造紙にまとめました。お昼休憩を挟んで、午後はまず「自分の住む地域がその魅力を最大限に発揮している状態」をイメージワークの技法を使って、心の中に具体的にイメージしてもらい、小グループでそのイメージを共有。その後、これまでグループで出されたキーワードやイメージを統合するために、「未来編集会議：2030年に皆さんの理想の地域の素晴らしさが紹介された新聞の第一面」を模造紙に自由に描いてもらい、各グループで発表してもらいました。そして、最終ステップとして、まず「自分たちの理想の地域を実現するために、誰かとやってみたい活動」について個々人で考えてもらいました。次に、考えが似た人や一緒に活動をやりたい人と新たにグループを組み、具体的な活動内容についてプランニングをした上で、各グループに発表してもらいました。

ワークショップ参加者の皆さんも多様で、年代も10代から60代まで、職業やバックグラウンドも様々な人々が参加してくれました。お互いの違いを超えて、自分たちの地域の魅力を生き生きと語り、未来のビジョンを楽しみながら共に描き、実現に向けての活動を情熱を持って計画する皆さんの姿に、ファシリテーターとしての私もたくさんのエネルギーをいただきました。

最近では先行きの不安感や無力感を煽るような出来事が世界各地で起きており、自分ができることなんだろうかと、思わずにはいられない、もしくはそう思わないように心を閉ざさざるを得ない時

代だとも言えます。しかし、そのような時代だからこそ、今回の **Future Session** のように、共に集って未来を語り、実現に向けての一步を踏み出すことの重要性も増しているのだと思います。「私たちは共に未来を創ることができる」、そんな希望を取り戻す機会を今後もぜひ創り出して行きましょう。

■参加者レポート

地域おこし協力隊から見た地域とは

臼杵市地域おこし協力隊

石橋 浩二

地域おこし協力隊について

私は大分県臼杵市で地域おこし協力隊として地域活動をしています。地域おこし協力隊（以下、「協力隊」と言う）とは2009年に総務省が制度化したもので、地方自治体が「移住・定住促進」や「特産品の開発」、「観光客誘致」などの活動のために地域外の人材を雇用する制度です。雇用契約は1年単位で最長3年間となります。私は2014年8月、横浜市から臼杵市に移住し、臼杵市の協力隊第一期生として着任しました。

協力隊になったきっかけは、横浜で生活していた頃、待機児童の問題に直面し、当たり前前の概念に疑問を持ったことからです。幼稚園に通えるようになったのは翌年で隣の区でした。小学校の運動会では身分のシールを胸に貼りグラウンドの出入り際には常にチェックされました。私が子供の頃にはなかった“当たり前”が積み重なり、その疑問は大きくなっていくばかりでした。そして、東日本震災後に新鮮な野菜が手に入りにくくなった頃、実家・福岡の畑では間引きされ踏まれていたニンジンが、それまで我が家が食べていたものよりも新鮮で美味しそうだった。その時に、移住の意思が固まりました。その後、転職活動を経て、ご縁あって臼杵市に移住することになりました。

臼杵市は協力隊の導入が後発の地域でした。そのため、市役所担当者が一般社団法人村楽の『地域おこし協力隊・失敗の本質』を参考にし、結果、臼杵の協力隊は自由な活動ができるようになりました。多くの地域では大なり小なりの制限が設けられ、活動しづらい協力隊もいます。そのような中で私は臼杵市の決断に感謝しつつ、自由に活動させていただきました。

株式会社まちづくり臼杵（以下、「まちづくり臼杵」と言う）の代表取締役・後藤社長に声をかけられたのは移住して2ヶ月ほど経った頃でした。最初の大きな仕事は大林宣彦監督や女優の常盤貴子さんらで映画を3日間で作りあげる『臼杵古里映画学校』（以下、「映画学校」と言う）でした。当時、組織はあるものの、纏まりがなく紆余曲折の末、何度となく組織の再編を繰り返していました。私の仕事は会議の開催通知と議事録の作成ですが、これが簡単ではありませんでした。横浜から移住して間もない私は発せられる言葉が地名なのか店名なのか、はたまた何が全くわからなかったのです。そして議事進行の資料がなかったことで理解して纏めるまでには相当な時間を要しました。この作業が年末まで続き仕事も次々と増えていきました。そして映画学校、怒涛の3日間は過ぎましたが、やり遂げた充実感がありました。その映画学校が終わり落ち着いた頃にまちづくり臼杵の常務執行役員として就くことになり、臼杵市の中心市街地に大きく影響したサーラ・デ・うすきのリノベーション計画に身も心もどっぷり入っていきました。

サーラ・デ・うすき（以下、「サーラ」と言う）は臼杵市の中心市街地に会議やパソコン教室が開催されていた臼杵市ふれあい情報センター（以下、「情報センター」と言う）と交流ホールを備えるサーラの2つの建物からなっています。情報センターは平成11年度地域イントラネット基盤整備事業（総務省）、そしてサーラは平成12年度マルチメディア街中にぎわい創出事業（総務省）の事業で建てられましたが、利用率が大きく低下していました。そこでサーラのリノベーション計画が進められていましたが、具体的な取り組みまでは進んでおりませんでした。

まず初めに様々な調査に入りました。情報センターで開催された講座を数年単位で調査し、稼働率を調査しましたが、平均3割も満たしていませんでした。そのほか、サーラの来館者数の分析、観光客の回遊状況など。そして臼杵が10年後も存続できているかどうかを調べるために農業や漁業も分析しました。結果、農業も漁業も就業者は70歳代がピークで、10年後の存続が厳しい現実を知りました。臼杵市は土づくりセンターを建設し、『うすき夢退避』から野菜を作っています。また、豊後水道という恵まれた漁場で魚を捕っていますが、10年後は厳しい現実があるとわかったのです。そこで旬を味わえるレストランの設置と旬以外の現金収入を得るための加工場をサーラに設けました。

特に加工場建設時には相当悩みました。臼杵には道の駅がありません。私は九州中の道の駅や直売所を周り、何が売れているかを見て回りました。そこで出した答えは、「それほど売れている加工品は見当たらなかった」ということでした。それは何故か？生産者と消費者のマッチングができていないのではないか？ということでした。余ったものから加工品を作っても消費者が購入するとは限らない。しかし、消費者が欲しいものは様々な要因で変化していくもの。であれば、様々なニーズに対応できるように数多くの加工什器を導入しようと結論づけました。そして、その加工場は市民のみならず、市外の方も使っていただけるよう臼杵六次産業オープンラボ（通称、臼六オープンラボ）と名付けました。

ポートランドの取り組みと私たちの活動について

先日、大分市で開催された『地域の未来を紡ぐ フューチャーセッション ～ハイパーネットワーク 2017 ワークショップ～』に参加し、その中で徳島大学の吉田敦也教授による米国オレゴン州ポートランドの事例について発表がありました。

ポートランドは自動車社会の米国でありながらハイウェイの工事を中断し、代わりにライトレールの整備を進めました。治安が悪かった倉庫街はおしゃれなレストランやギャラリーに変貌し、人気のあるスポットに変わっていきます。ありふれた駐車場は公園に改修し人が集う場が変わっていきます。結果、

自動車よりも自転車や歩行者を優先する文化が根付いてきたようです。面白いのは地域や場所によっては厄介者扱いのスケートボード愛好者。ポートランドではスケートボードは移動手段の一つと認められており、専用の公園や指定ルートも備わっているそうです。そのほか、街にはおしゃれなカフェがあちこちにあり。一見、おしゃれなカフェだと思った写真。実は日本食レストランでした。

一通りの発表を聞き終わると、ポートランド独自の発展に感動するとともに、これまで私が協力隊として活動してきたことに間違いないと確信を持ちました。それは地域にあった独自性の追求です。繰り返しになりますが、地域おこし協力隊は総務省が制度化したもので、地方自治体が様々な活動のために地域外の人材を雇用する制度です。最近でこそ募集要項が多様化してきましたが、多くの地域では同じような活動をしております。人口減少の中、同じような活動と情報を発信しています。その地域の特徴を生かした独自性の追求、これこそが魅力的な地域につながっていくと思います。ポートランドが今でこそ世界中から注目を浴びていますが、動き出した頃はそうではなかったことでしょう。

実は臼杵市もポートランドに似たようなところがあります。アーケードを取り壊し、石畳に張り替えました。商店街の店舗は昔ながらの趣のある店構えになりました。他の地域が新しく改修していた頃に、です。サーラでは食に特化した施設に生まれ変わりました。もうすぐだと思います。

■講師資料 レクチャー①



「フューチャーセッション」

「プラチナ社会実現に向けた 各地域の取組み」

2017年1月13日

プラチナ構想ネットワーク事務局
保木 純



プラチナ構想ネットワークとは



会長: 小宮山宏
第28代 東京大学総長
三菱総合研究所理事長

自治体会員 151名
法人会員 85名
特別会員 57名
海外会員 6名
計299名

その他、多数の機関・団体・個人と連携して「プラチナ社会」の実現に向け、活動を進めています。



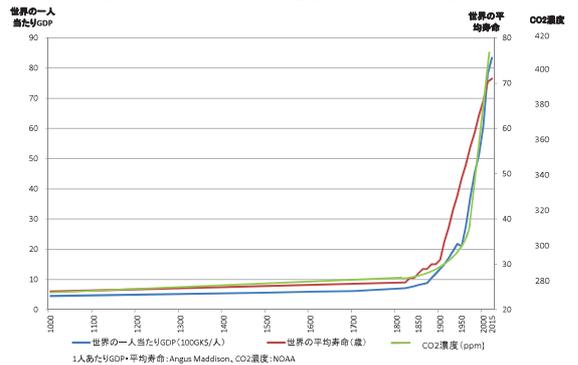
プラチナ社会とは

- 大きな転換期を迎えつつある人類
- ・世界の平均寿命は70歳を超え、さらに伸びる
 - ・引き続き工業化は進展、世界中が豊かになり、モノは、やがて世界に行き渡る



モノも情報も手に入る、移動も長生きもできる
モノの豊かさを求めて、それを実現した
今後求められるのは質的満足だろう

物質的、量的豊かさと長寿の20世紀



Copyright © 小宮山宏 (Dr. Hiroshi Komiya)

4

人類史の転換期



人工物の飽和の最終段階、そして需要不足

四輪乗用車保有台数

	2007		2010		2014
	保有台数 (百万台)	一人当たり保有台数	保有台数 (百万台)	一人当たり保有台数	
日本	58	0.45	58	0.46	0.10
アメリカ	138	0.45	119	0.38	
イギリス	31	0.51	31	0.50	
フランス	31	0.50	31	0.50	
ドイツ	41	0.49	42	0.51	
中国	32	0.02	61	0.05	
インド	13	0.01	13	0.01	

(Data) Japan Automobile Manufacturers Association, Ministry of Internal Affairs & Communications

Copyright © 小宮山宏 (Dr. Hiroshi Komiya)

5



図 移動の自由、多様な働き方

Copyright © 小宮山宏 (Dr. Hiroshi Komiya)

6

■講師資料 レクチャー①

ビジョン「プラチナ社会」

プラチナ構想ネットワーク

プラチナ社会の必要条件



エコロジー

- ・公害克服
- ・生物多様性
- ・地球環境

資源の心配がない

- ・省エネ・新エネ
- ・一次産業
- ・循環型社会

だれでも参加できる

- ・交流
- ・生涯成長
- ・健康で安心な加齢

自由な選択

- ・文化・芸術・スポーツ
- ・多様な選択肢
- ・GDP

雇用がある

- ・イノベーションによる新産業

この周辺に新しいビジネスがある

7

ビジョン「プラチナ社会」

プラチナ構想ネットワーク

誇りを持とう

世界で先進国の一つだった

江戸の鎖国

明治維新

2000

欧米(工業)と日本(文化)の異なる進歩

高度経済成長(1868~)

公害の克服(1960~)

エネルギー危機の克服(1970~)

長寿社会の実現(1970~)

知識の爆発

地球規模問題

高齢化問題

課題解決実績のある課題先進国

文責 小宮山 宏

8

プラチナ構想ネットワーク

プラチナ構想ネットワークの活動

理念の普及啓発(取り組み事例の発掘・発信)
→ プラチナ懇談会、シンポジウム、プラチナ大賞

人材育成
→ 各種スクールの展開
(プラチナ構想スクール(@)、保健師スクール、プラチナ未来人材育成塾)

社会実装
→ 各種ワーキンググループ&プロジェクト

プラチナ構想ネットワーク

是非お読みください

基礎の全体像

地球持続の技術

集大成

新ビジョン2050

地球温暖化、少子高齢化を克服できる

小宮山 宏

未来構想の総仕上げ

課題先進国日本

プラチナ社会

日本再創造

日本を再創造する

事例紹介

下記URLをご参照ください

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou/award.html>

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2016/ceremony.html>

プラチナ構想ネットワーク

プラチナ社会とは

量的拡大による成長 (東京一極、国家主導)

↓

質的追及による成長 (地域起点のイノベーション)

↓

個々のイノベーションを統合、見える化

↓

プラチナシティ、プラチナコミュニティの増殖と連携

プラチナ社会はプラチナシティの集合体

御清聴ありがとうございました。

■講師資料 レクチャー②

ハイパーネットワーク2017
ワークショップ地域の未来を紡ぐ フューチャーセッション

地域の持続を創る参加共創型 オープンイノベーションプラットフォーム 徳島大学フューチャーセンターA.BA

徳島大学・地域創生センター
教授 センター長 吉田 敦也
<https://www.facebook.com/atsuya.yoshida>
2017.1.13

場所:大分県消費生活・男女共同参画プラザ2F大会議室
大分市東春日町1番1号 Ns大分ビル

主催:ハイパーネットワーク別府博会議実行委員会
大分県 NTT西日本 大分支店 日本電気株式会社
富士通株式会社 (公財)ハイパーネットワーク社会研究所

話題提供

- はじめに
- ポートランドとの出会い
- 日本の地方創生、大学の課題
- フューチャーセンター、FCAJとの出会い
- 徳島大学フューチャーセンターA.BAの誕生
- ポートランド×A.BA×FCAJ
- 40年プロジェクト
- おわりに

米国オレゴン州ポートランド

米国西海岸シアトルの南
アムトラック(電車)で約3時間半~4時間 片道28ドル
飛行機約1時間 片道119~298ドル
サンフランシスコの北
飛行機で2時間弱 片道176ドル~

- 美しく、幸せそうで、おだやかで
- クリエイティブで、イキイキ、楽しそうで
- 多様性、市民の声、パートナーシップ
- チャレンジング、やりきる力があり
- 競争力があり、成長がある
- なんでも1番!
- アメリカを変えた町

人口 約63万人
面積 376.5 km²

都市圏 (メトロポリタン)
人口 約220万人 全米23位

※メトロ(地域政府Regional government)
[https://en.wikipedia.org/wiki/Metro_\(Oregon_regional_government\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Metro_(Oregon_regional_government))

オレゴン州
人口 約390万人

森林面積 51.3%
公園の数 280
10,000 acres (4,000 ha)

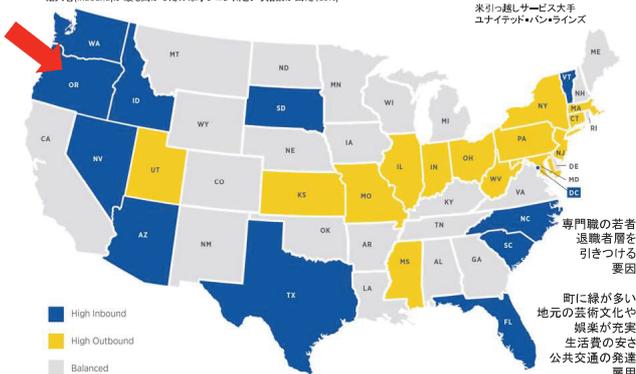
United Van Lines 2015 Migration Study

米国内で州を越えて引っ越した人の出入りをまとめた統計

転入者(inbound)が最も高かったのはオレゴン州という結果が出た(69%)



米引越しサービス大手
ユナイテッドバンライズ



マグネットシティ、デスティネーションシティ
1週間に300~500人の人口増

アメリカ国内からの移住: 31%

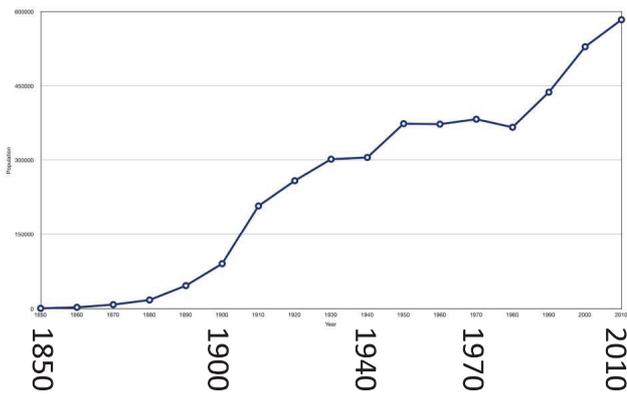
海外からの移住: 21%

自然増: 45%

平均年齢: 36歳が集まる

人口増加の勢い

<http://quickfacts.census.gov/qfd/states/41/4159000.html>



ハイウェイ革命

1976
市民運動で
高速道路建設を中止し
公園に変える



高速道路建設を中止した場所が
緑のある美しい都市公園に変身



子育てしやすい街づくり

公園の数 280
徒歩10分圏(1/2マイル)公園政策

半径20分のまちづくり

米国オレゴン州ポートランド

ウォーカブル

歩きたくなる街・楽しく歩ける街

バイカブル

自転車で動ける街

(市内500kmのバイクウェイ、自転車通勤率6%)

エリアの資産価値を高めるコンパクトシティ化
ワンブロック60メートル(米国標準は120m)

公共交通の整備

トランジットモール

道路利用の見直し
ライトレールの導入(MAX、ストリートカー)

トライメット

交通局

まちづくり会社として機能
街の賑わい、住み易さをデザイン
都市圏全体をカバー(特別共同体)

通勤/通学の45%(33万人)が公共交通を利用

建物のミクストユース

米国オレゴン州ポートランド

人がいなくなる中心市街地づくり

PDCリバーディストリクト開発計画
行政とデベロッパーで共同開発した
パール地区

職・住・学・遊のミクストユース
24時間ダウンタウン

エコ・ディストリクト

米国オレゴン州ポートランド

環境に優しい街づくり

5-30街区を一つの環境システムとして
相補する経済的エコロジーをつくる

グリーンビルディング
LEED認証で都市環境をブランディング
環境負荷の軽減から地球環境保全、気候変動に備える

街の記憶づくり

米国オレゴン州ポートランド

歴史的建造物の保存と再生利用

5-30街区を一つの環境システムとして
相補する経済的エコロジーをつくる

グリーンビルディング
LEED認証で都市環境をブランディング
気候変動や地球温暖化に備える





ウキウキ
自転車ハンガー
路面電車に乗るのが
楽しい、お洒落



駐輪場は目の前
我が街が好きになる



自家用自動車は通さない「人々の橋」を作った
我が町に誇りを持つ (シビックプライド)



スケボーも交通手段
(Foot Traffic)
多様な社会づくり



市民による新しい公共づくり
プレイスメイキング
駐車を廃止して広場づくり



シティリペア活動
コミュニティの形成に役立つみんなの「場」づくり
道路ペインティング
道路補修ではない街の修繕活動



スモールビジネス

産業を育てるマインドと支援/共創力

挑戦、実験をみんなが支援

- ・クラフトビール
- ・サードウェイブコーヒー
- ・ポートランドファーマーズマーケット
- ・ローカルファースト事業(ニューシーズンズ)
- ・フードカート(屋台)
- ・ランドリー&カフェ(Spin)

お金を稼ぐ地ビール

米国オレゴン州ポートランド

クラフトビールの経済効果

オレゴン州全体で206のビール会社
246ビール工場(ブリュアリー)

州全体で8500名を雇用
売上は4500億円、生産は170万バレル

そのうち105万バレルが国内50州、35か国へ供給
65万バレルが地域内で消費(地域内消費の22%が地ビール)

<http://oregoncraftbeer.org/facts/>

ポートランドのビール醸造所

65 ブリュアリー

オレゴン州の他の市との比較

65 in Portland — 96 in the Portland Metro Area

14 in Eugene — 46 in the Willamette Valley

24 in Bend — 32 in Central Oregon

6 in Medford + Grants Pass — 25 in Southern Oregon

5 in Astoria — 25 in The Coast

2 in Baker City + Ontario — 11 in Eastern Oregon

5 in Hood River — 11 in Mt. Hood/The Gorge

新文化の創発/育成力

サードウェイブコーヒー

焙煎とコーヒーを楽しむ新しい若者文化

原産地でない食文化づくりの原動力

新しい食文化づくり

チョコレート

チーズ



■講師資料 レクチャー②



大学構内のファーマーズマーケット
出会いと雇用をつくる産直市
挑戦、実験の場づくり



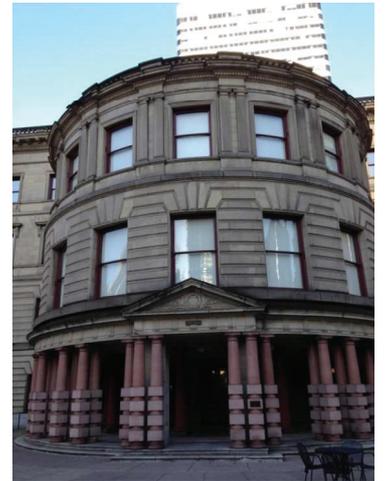
楽しむ力
青空インキュベーター



市民の合い言葉

おかしくあれ
Keep Weird

ポートランド
市役所



City Hall

議員(コミッショナー)は5名
(そのうち1名は市長)



都市名	人口	市議数	都市名	人口	市議数
ニューヨーク	7322564	51	メンフィス	610337	13
ロサンゼルス	3485398	15	ワシントンDC	606900	13
シカゴ	2783726	50	ボストン	574283	13
ヒューストン	1630553	—	シアトル	516259	9
フィラデルフィア	1585577	17	エルバソ	515342	6
サンディアゴ	1110549	8	ナッシュビル	510784	45
デトロイト	1027974	9	クリーブランド	505616	21
ダラス	1006877	11	ニューオーリンズ	496938	7
フェニックス	983403	8	デンバー	467610	13
サンアントニオ	935933	10	オースティン	465622	6
サンノゼ	782248	10	フォートワース	447619	6
インディアナポリス	741952	29	オクラホマシティ	444719	8
バルチモア	736014	19	ポートランド	437319	4
サンフランシスコ	723959	11	カンザスシティ	435146	12
ジャクソンビル	672971	19	ロングビーチ	429433	9
コロンバス	632910	7	ツーソン	405390	6
ミルウォーキー	628088	16	Portland OR	609,456	5 (市長含)
			徳島市	261,882	34

声の届く議会

市民でなくても誰でも参加可/発言権

学校の生徒が地域の問題を議会で説明し解決を求める



ポートランドブーム

急増する日本全国からの視察
ポートランドとコラボした地方創生事業

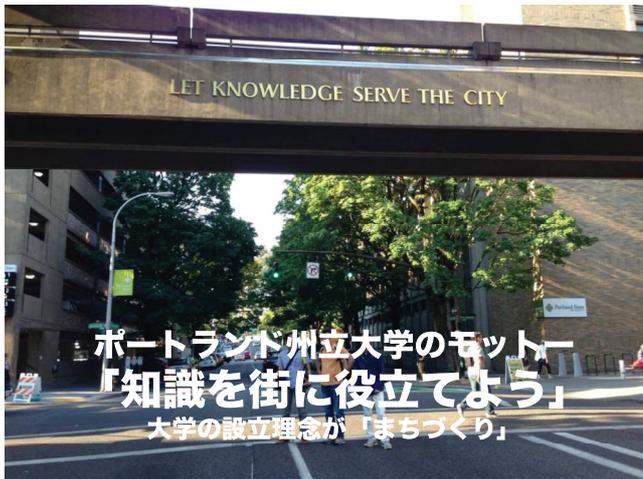
例えば

札幌、東京、千葉、横浜、大阪、和歌山(有田川町)、神山、岡山、広島、福岡、沖縄

大学も

北大、早稲田、慶応、龍谷大学、岡山大学、広島修道大学、洗足学園大学、筑紫女学園大学

その他多数の地域、大学が提携、協定を結び始めている



つまり、
ポートランドは
街全体がリビングラボだった。
さらに楽しくアクションする力があつた

賢い成長 スマートグロース Smart Growth Policies

ポートランドにおける4つのステップ

- 1970 土地利用規制(環境保護政策)
- 1980 成長の管理(経済成長計画)
- 1990 コンパクトシティ化による都市再生
- 2000 地球温暖化に備えたスマートグロース

受賞歴

- 全米1 最も住みたい街
- 全米1 環境にやさしい街
- 全米1 クリエイティブな街
- 全米1 最も外食目的で出かける価値のある街
- 全米1 最も出産に適した街
- 全米1 ビールが美味しい街



日本の地方創生は 社会イノベーションを 生んでいないのではないか



NHKニュース

2016年6月16日 5時41分

- 地方創生事業(2700億円)
- 自治体の目標達成は4割弱(37%)

• 全国自治体で進められた地方創生事業のうち国が先進的事例として紹介する75事業についてNHKが1年目の進捗状況を調べた。その結果、自治体のみずから設定した目標(経済効果や人口増加)を達成したものは28事業。4割に満たない(37%)ことが分かった。交付金は2年間で合わせて2700億円。

• 福島県会津若松市が地元商店街の活性化を図ろうと1200万円を使って発行した地域限定の電子マネー事業では、利用できる店舗が目標の100店舗を大きく下回る11店舗にとどまり事業継続を断念していた。内閣府は「『地方創生』は1年や2年の取り組みで成果が上がるものではなく試行錯誤はやむをえない。各自治体が失敗から学び成功につなげられるよう支援する」

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160616/k10010557881000.html>

問われる日本のあり方

- 学びをどう作るか
 - インプット (視野拡大)
 - 集合知形成 (知識創造)
- アクションをどう作るか
 - プロトタイピングと社会実践
- 「場」をどう作るか
 - 機能するパートナーシップ

徳島県市町村の大きな課題 高齢者人口に対する単身高齢者の割合

	人口(2011)	老年人口割合(2011)	単身高齢者割合(2005)	県内順位
つるぎ町	10,430人	40.1%	20.2%	1
牟岐町	4,800人	41.4%	17.9%	2
三好市	29,822人	38.2%	17.8%	3
海陽町	10,401人	37.5%	17.8%	3
徳島市	264,824人	23.2%	17.1%	5
上勝町	1,769人	52.2%	15.8%	6
美波町	7,754人	40.5%	15.7%	7
神山町	6,006人	46.4%	14.4%	8
小松島市	40,529人	25.9%	14.2%	9
美馬市	32,376人	31.7%	14.1%	10

http://www1.pref.tokushima.jp/003/04/shihyou2011/t_16.html
http://www1.pref.tokushima.jp/003/04/shihyou2011/t_13.html

人口 徳島県:780805人 徳島市:264129人 鳴門市:61048人 (2011/10/1)
 面積 徳島県:4145.69km² 東京都:2187.42km² 大阪府:1896.83km²

徳島県の人口減少 消滅の危機

- 推計人口は77万0737人(前年より約4755人減)
- 11年連続の減少(2013.1.1)
- 自然減:2805人(死亡数一出生数)
- 社会減:1950人(県外への転出数一県内への転入数)
- 2035年に62万2千人まで落ち込む(国立社会保障・人口問題研究所予測)
- 県内12市町村(半数)で人口は2005年の3割以上減少する見通し
- 神山、つるぎ、那賀の3町では半減する見通し
- 県内の2007年の合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子供の推定値)は1.30。全国平均の1.34を下回り、四国4県の中で最も低い。人口千人当たりの年間の婚姻届件数(婚姻率)は4.7(全国ワースト8位)。

問題の本質

本当の問題は何か

- まちづくりのための大目的と目標設定

地域の持続を生み出すビジョン
持続戦略の形成

- 地域を育てる人材の育成・確保

グローバルな視点とマインドセット
許容の風土、自律した応援団の醸成

- 地域の暮らしの豊かさを知る・考える

自治と地域主導のあり方への新しい視座
幸せな生活、社会価値の変容、物語づくり



衝撃の出会い 「フューチャーセンターの父」

レイフ・エドビンソン博士 Leif Edvinsson
1996年、スウェーデンのルンド大学教授(当時)で新・リクラブ創始者レイフ・エドビンソン博士が提唱。世界で40カ所以上、日本でもすでに40カ所以上に設置(または実践)されるまでになっている。 51



Are You Ready for the Future!

君は未来の準備はできているかい?!

世界があっと驚いた

世界初「スカンディア・フューチャーセンター」

1996年、スウェーデンの保険会社スカンディアは世界各地から精鋭を集め、自社の生き残りをかけた「未来のビジョン」と新しいビジネスを示す作業を命じた。そのために用意したオフィス(作業場)がフューチャーセンター。わずか1年で大きな成果をあげ、そのオフィススタイルと機能性に世界があっと驚いた。そして瞬く間に欧州、英国に広がった。

ニューズウィーク誌
「世界10のいい働き場所」のひとつに選定されたスカンディア・フューチャーセンター
<https://www.flickr.com/photos/7603669@N03/445806763/in/dateposted/>

2005年初期までに誕生した
スカンディアモデルの

5つのFC

▪ Castle Gloenevel Baarn 1999
オランダ経済・農業・イノベーション省「国立景観森林センター」
18世紀の宮殿を活用(賛否は分かれているが)

▪ Mobilion (→LEF) Utrecht 2002---->2008
オランダのインフラストラクチャー・環境省の水利運輸管理局

▪ The Shipyard (De Werf) Breda 2003
オランダ財務省の国税/関税庁

▪ Academy SZW The Hague 2003
オランダ社会雇用省アカデミー
Ministry of Social Affairs and Employment
Ministerie van Sociale Zaken en Werkgelegenheid(SZW)

▪ The Country House (Het Buitenhuis) Den Haag 2004
オランダ経財省、内務省、財務省、(現)環境省のジョイントベンチャー

<http://www.het-buitenhuis.nl/>

■講師資料 レクチャー②

The Shipyard

オランダ 2003

所在地: ブレダ

設立: 2003年11月

運営組織: オランダ国税庁(財務省配下組織)

Future Center of the Dutch Tax & Customs Administration

マネージャー: Ernst de Lange

国税庁職員でシップヤード開設者

コンセプト:

組織を船に例え、航海から戻った船は、修理(問題解決)し、次の航海へ旅立つ職員は乗組員。修理の間、船から降りて船の様子客観的に見る

- スタッフ: 7名
ディレクター、カルティベーター
- ファシリテーター
外部の専門家にワークショップ委託(毎回評価)

The Shipyard

ミッション:

課題解決と税収のアップ

- 職員が中心に参加するワークショップの開催と運営
- 直観力を養うことを促す
- 脱税、密輸の防止検討や税金未納や遅滞の解消策などもテーマとなる
- 大学研究室と協働(アンケート調査、研究結果など)
- 独自の判断により
国税庁のオペレーションを中断させる権限がある
- 利用対象者: 国税庁の職員
職員(30,000人)のうち年間2,000~3,000人が利用(1割)
- 古い建物(文化財)を利用
小さな部屋が17(それぞれに役割・テーマ)
- 遊び心をデザインの重要な要素にしている
一日一団体のみ利用可能

LEF

オランダ 2008

所在地: ユトレヒト

設立: 2008年9月(Mobilionは2003年)

運営組織: オランダ治水省

Rijkswaterstaat Future Center,

Department of Public Works & Water Management, the Netherlands

Cees Plug

Director LEF future center

(2008年6月~2015年1月 6年 8ヶ月)

オランダ治水省(RWS)1975~2010(35年在籍)

ライデン大学法学部卒

2003年Mobilion設立時から責任者。全く知識のないところからスタートして、学識経験者、建築家とともにフューチャーセンターを作り上げた。

LEF

ミッション: 事業費削減、事業実施のスピード化

- 道路、治水事業の効果的/効率的な意思決定
- バーチャル試算で€4.5m/yの投資で€20m/yのコスト削減効果が見込まれている
- 職員(9,000人)や外部から年間(200日)で10,000人が利用
- インパクトのある手法(枠を越えた考え方を示す目的)

Dialogues House

オランダ 2007

Dialogues House ABN-AMRO Bank

the Netherlands

所在地: アムステルダム

設立: 2007年

運営組織: ABNアムロ銀行(オランダ最大の銀行)

- 民間利用OK
- 最大400人収容
- インキュベーションオフィスと
イノベーションセンターを併設

Dialogues House

運営

- 主な活動
インキュベーション(起業支援)とクラウドファイナンス
オープンセミナーを定期開催(週2回)し、社外知見の
取り込みと社内知見を発信
- イノベーションセンターを創設(2013.9.16) • スローガン:
一緒に可能性を広げよう!
異なるやり方がいつも良いものは限らない、
でもよいことはいつも異なるやり方からはじまる!
- Brilliant Mistake(過ち、その過程から学ぶ)

■講師資料 レクチャー②

広がる欧州・英国に波及 (約40カ所)

- オランダ:
LEF(モビリオン)、シップヤード、ダイアログハウス
カントリーハウス、アカデミー、ブリックなど
- デンマーク:
マインドラボ
- イタリア:
テレコム・イタリア フューチャーセンター
- フィンランド:
アールト大学
(アーバンミル、スタートアップサウナ、デザインファクトリー)

アジア

- 香港
- 台湾
- 日本
富士ゼロックス(2007)
富士通

フューチャーセンターを保有する日本企業



フューチャーセンターを保有する 日本の官庁、大学



Future Center Alliance

- FCA
- FCAJ
- Open Future

あらためての整理 フューチャーセンターとは

1組織(企業等)単独では解決できない複雑な問題や、中長年にわたる社会課題などに対し、産学官民の垣根を越えて未来のステークホルダーが集まり、仮説をつくる「場」

- Leif Edvinsson
組織の発展を駆動させる主要な手段
その場で共有される経験をつうじて、新たな知を探究する。
- Hank Kune
特別な仕事の環境
人々が従来のパターンやルーティンから抜け出し、複数の視点から問題を見て、効果的な実践の方向性を展開することができる「場」

Future Center Alliance Japan (FCAJ) より

■講師資料 レクチャー②

フューチャーセンター 基本的考え方

- インベーションのエンジン
- 協働のための環境
- 人を支援する人間的環境
- 経験を通じた知の探究
- 未来の潜在的価値へのフォーカス
- 組織的持続性のためのインテリジェンス研磨
- 知的資本の形成のための空間提供
- 関係的資本の育成
- 未来のチームのための空間提供
- 組織的資本のための実験室

フューチャーセンター 基本的手法

- 対話とファシリテーション
- 可能性の発見/拡大と即時デザイン
- 目的への到達のドライブ
- 脳科学的アプローチ
- 人間中心主義
- デザイン思考

紺野登(2008)「知で革新するワークプレイス」
未来をつくるワークプレイス、欧州発祥の「フューチャーセンター」等
http://www.nikkeibp.co.jp/style/biz/office/080327_12nd/index.html

諸相

- 組織体制
- ビジョンと使命
- ポジショニング
- 資金
- 施設/設備
- 製品/サービス
- パフォーマンス管理
- ライフサイクル
- リニューアル
- テクノロジー
- 成功要因

施設としてのあり方

ミーティングスペース

建物、入口、レイアウト、材料、雰囲気为基础に以下の性能を高める

イノベーションエコロジー

イノベーションの触媒となる空間設計

目的到達への「場」の力

対話ベースのその場の経験から集合知を築き「デザイン」として形にする

The Future Center Experience: A View from the Work Floor by Hank Kune (Educare, Future Center Alliance)
@Intellectual Capital for Communities in the Knowledge Economy, Paris, May 28-29, 2009
http://info.worldbank.org/etools/docs/library/251742/Kune_Session6_IC5.pdf

The Future Center as a Catalyst for Innovation Ecology in Science & Technology Parks
By Dr. Ron Dvir, Tomas Garcia, Fernando Ozores, Yael Shwartzberg (Paper for IASP conference, Barcelona 2007)
<http://innovationsecology.com/papers/future%20Center%20for%20Science%20and%20Tech%20Parks.pdf>

人的構成

- ディレクター
- プログラムマネージャー
- ファシリテーター
- エキスパート
- フロントオフィス(カルテベーター、ホスト等)
- サポートスタッフ
- 依頼者
- 参加者
- ステークホルダー
- エンドユーザー

日本の大学に無かったフューチャーセンター

● 日常的な感覚を切り替える学習空間

遊びの要素、五感の刺激、脳科学を基礎としたイノベーション促進

● 繋いで行く(コネクトする)学習空間

人と人、知と知、地域と大学、セクター間、世界各地と地方の接続

● アイデアを共有し共創を促進する学習空間

レイアウト変更、グループワーク、プロトタイプングへの高機能性

世界は大学連携による未来(持続する地域、社会)の創出に走り出している。発想の転換、事業や政策に関する革新的な立案、コンセプト創出と実践、グローバル人材育成が急務の課題となっている中、フューチャーセンターの大学への設置と、これまでになかった新しい大学機能の活用には大きな期待がある。

■講師資料 レクチャー②

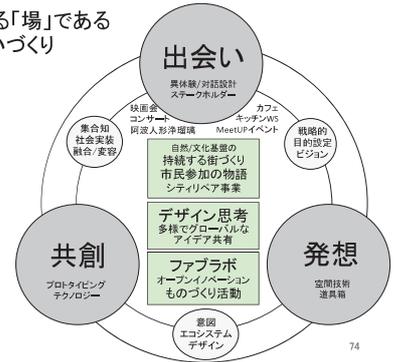


フューチャーセンター
の3つのポイントと機能構造

- ・未来を創ろうと行動する「場」である
- ・出会わない人の出会いづくり
- ・デザイン思考

「場」の力を活用し
今必要な未来の一部を
組織やコミュニティに
取り入れてみる

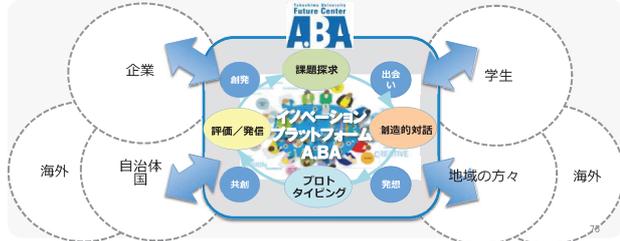
従来の枠組みでは解決
困難な課題に対して、
「集団の知恵」の形成と
参加者の真の協働を基
盤に、取り組む。



徳島大学の地域創生戦略
「地域の持続とイノベーション人材育成地域の中核となる大学づくり」

これからの新しい大学のかたち。
「阿波の“あばばい”未来づくり」を目指す地域創生の場
徳島大学フューチャーセンター『A.BA』

従来のアプローチでは対処できない
社会課題を解決する参加共創型のオープンイノベーションプラットフォーム
所属や立場の異なる多様な関係者が集まり、中長期的な目的設定のもと、
新たなアイデアや解決手段を見つけ出し、実践の場として機能



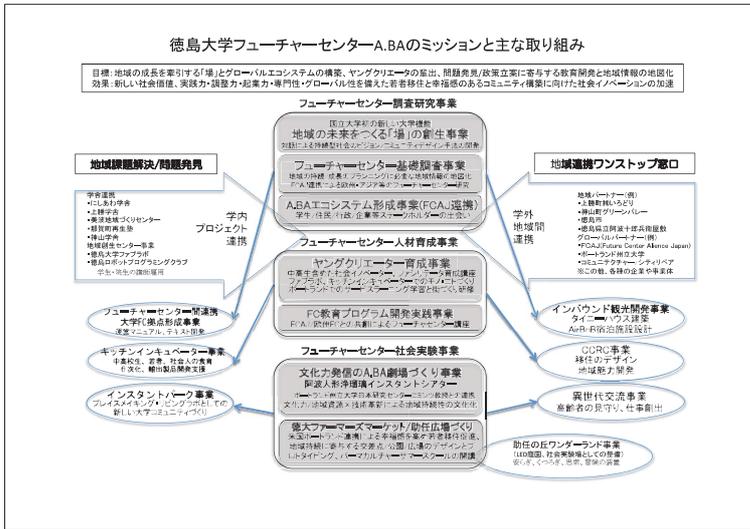
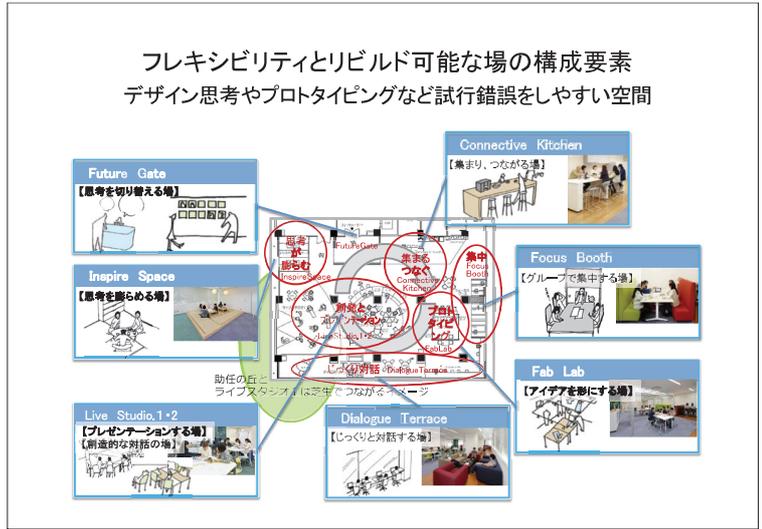
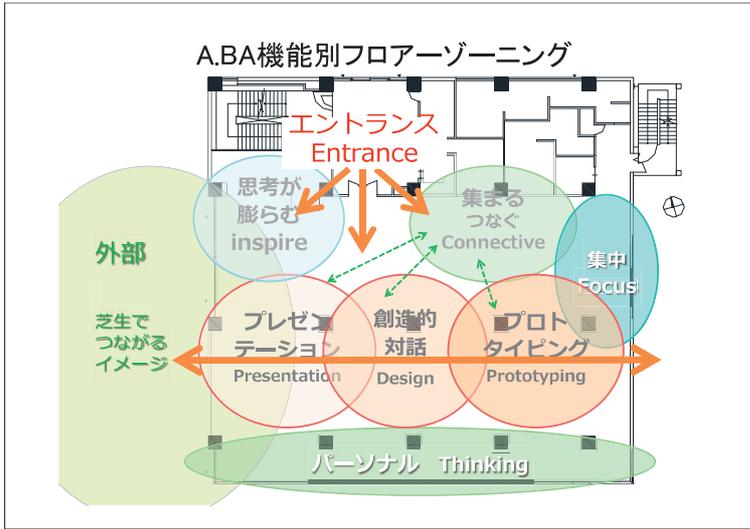
徳島大学フューチャーセンター「A.BA」



「阿波の
“あばばい”
未来づくり」を
目指す地域創生の
“場”



■講師資料 レクチャー②



フューチャーセンターA.BA誕生までのプロセス

2013年～

徳島大学 『地域再生プレミアム人材 創出プロジェクト』

- 目標
 - ①新しい社会価値のもと「実践力・調整力・起業力・専門性」を兼ね備えた人材創出
 - ②情報共有と合意形成に向けた地域ネットワークの構築
 - ③人間基盤力、地域課題解決、ICT活用の新しい教育適用
- 徳島大学地域創生センター 学生・住民・行政・企業などステークホルダーによる「共通対話とおもてなし」により未来設計→プロトタイピング → 地域実践
 - ベンチマークモデル (オランダ)
 - shipyard (オランダ)
 - sheet2Meet (オランダ)
 - D-School (米国)
- 徳島エリアの持続と変化に対応に向けた活性化研究 徳島市シティベア 研究の構造化と研究会の推進指示
- デザイン思考 ワークショップ開催 (5月～8月全3回開催) 徳島市シティベア研究会 実施 産官学民編成チームにて徳島の持続とまちづくりを立案。
 - 海外調査実施 (米国ポートランド)
 - ベンチマークモデル調査分析
 - インスタントパーク運動 シティベア活動をインスタントと命名
 - Archi人形浄瑠璃の上演
 - フューチャーセンター A.BA開所式 オープニングセレモニー
- 2015年9月24日 OPEN

社会の反応/評価

A.BA



■講師資料 レクチャー②



原 徳島市長による祝辞



紺野 多摩大学大学院教授による祝辞



マーク・レイクマン氏による基調講演



利用状況

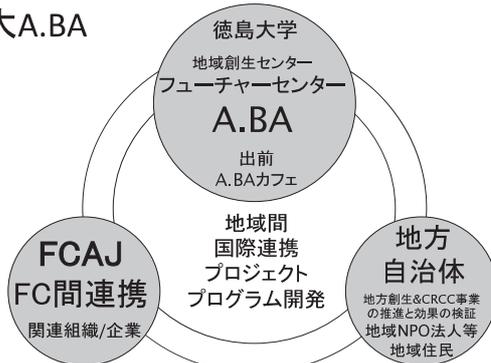
- 平成27年9月の開所から28年5月末までの間に、72件のワークショッププログラムが開催され、合計844人が参加している。
- フューチャーセンターを飛び出して、本学のサテライトオフィスや都会でのプログラムも始まっている。
- 行事内容が政治的、宗教的であるものや営利を目的とするもの等以外であれば、学内は勿論、広く一般にも貸し出している。
- 内閣府や文部科学省等の政府機関、徳島県や地域自治体、他大学や民間企業等から数多くの視察を受けており、高い評価を得ており、「是非とも使用したい」との多くの申し出を受けている。
- また、視察の結果、是非、我が町にも設置したいと、実際に設置に向けて検討を行っている自治体もある。

No	A.BAに初めて入った徳島大学生の第一印象 対象:1年生50名(全学)、総回答数94件(複数回答)	回答数	
1	かっこいい/クール/斬新/すげえ/デザインの/おしゃれ/白い/カラフル/近未来感!/未来感/近未来的/最先端/現代的/徳大じゃないみたい/私立みたい/展示物か?/モデルルームのようだ	23	近未来的デザイン感
2	住みたい/暮らしたい/生活できそう/居心地良さげ/適性温度/おちつけそう/ソファきもちよさそう/寝れそう	13	居心地/居住したい感
3	キレイ/清潔な感じ/新しい空間/新しい	12	できたて感/清潔感
4	柱が黒板/黒板の柱オシャレ/机がおもしろい/キッチン/畳がある	10	新アイテム感/和感
5	遊び心がある/おもしろそう/開放的/自由/楽しい/楽しい感じがする/フクワク	8	アクション誘発感
6	オフィスルーム/会社みたい/最先端の会社/海外みたい/グーグルオフィス/MITっぽい	7	グローバルオフィス感
7	広い!	5	のびのび空間感
8	新築のニオイ/良いニオイ	4	五感触発感
9	空間が色々ある/部屋のコンセプトが多様/部屋自体が使いやすい!/何でもできそう	4	多様感/ユーザビリティ
10	金かかってそう/高そう/理工学部との差/なんだかずるい	4	高級感
11	3Dプリンター/パソコンいっぱいある	2	テクノロジー親和感
12	キッチンは土足でいいのか?/ほぼつかわれなさそう	2	その他

「場」ができてよかったこと 何が実現できたか

- 大学生がイキイキとした**
新しい学び、脳だけではない心や身体が感じることによる学習、地域基盤型学習、冒険と革新への動機付け
- 地域の人が集まり出した**
これまで出会わなかった人と人とのリンクが生み出す、地域創生の新次元、社会イノベーションへの糸口
- 地方へのフォーカス**
A.BAへの全国、世界各地からの反応があり、徳島が「地方」でなくなる兆し、持続する社会への土台形成

地域間FC連携、海外リビングラボ型創造都市との連携で縦・横のネットワークをつなぐ徳大A.BA



フューチャーセンター使用実績





ポートランド × A.BA × FCAJ

神山に遊んで 「にしあわ」を作る！

つながりを作る学び、真夏の観光・新緑で生まれる社会イノベーション

徳島大学「にしあわ」プロジェクト 徳島県 神山町 神山学舎

7/8(土) 8:30~22:00
7/9(日) 8:00~18:00
場所：徳島大学神山学舎 神山の宿「作良家」

ポートランダー・ケイト・ワシントンさんと 一緒に歩いて、デザインする 「にしあわ英語旅」

外国人観光客おもてなしプログラム開発WS

7/11(月) 14:30~17:00
7/12(火) 10:30~12:00
場所：徳島大学神山学舎 神山の宿「作良家」

ポートランダー・マット・ヒポーさんと 一緒に歩いて、デザインする 「にしあわ英語旅」

外国人観光客おもてなしプログラム開発WSその2

ゲスト：ポートランダー・マット・ヒポーさん
場所：徳島大学神山学舎 神山の宿「作良家」

9/21(木) 14:00~18:00
9/22(金) 9:30~12:00
9/22(金) 13:00~15:00

英語旅をつくる講座 学びは「我が町を知る」

第2回 徳大ファーマーズ マーケット

地域の未来をデザイン
& プロトタイプング

9/24(土)

時間：10:00~15:00
場所：徳島大学第三キャンパス 助任の丘

マーケットをつくる講座 学びは「食がつくる地域のつながり」

神山に遊んで 「にしあわ」を作る！

全米一住みやすい町、オレゴン州ポートランドで全米初の野山独逸園「地球学校」初代校長マット・ヒポーさんと遊んで、デザインする「にしあわ」の魅力を紹介します。EnBleの「にしあわ」について学びます。EnBleの「にしあわ」について学びます。EnBleの「にしあわ」について学びます。

10:00~12:00
13:00~16:00

場所：徳島大学神山学舎

ホテルをつくる講座 学びは「ユニバーサルな価値の発見」

ポートランド × 徳島スタヂ

Jfarm Cafe "Parantica site"
ファーム トウ テーブル
ポップアップランチ in 加茂谷

11/23(水)

11:00~13:00

神山学舎

ポートランダー・ケイト・ワシントンさんと一緒に歩いて、デザインする「にしあわ英語旅」

11/23(水)

18:00~20:00

■講師資料 レクチャー②



今後の展開 大学を核とした地域づくりのさらなる推進

Step 1

フューチャーセンターA.BAのエコシステム形成
地方創生に向けた新しい産官学民パートナーシップの醸成

• Step 2

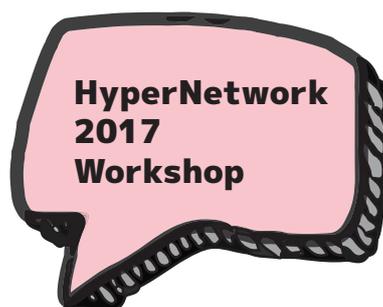
フューチャーセンター間連携(FCAJ)による事業の実施
グローバルアライアンスでイノベーション創出アクション

• Step 3

社会イノベーションの実践とリード、徳島大学ならではの教育/
研究と社会貢献、モデル形成、ニューオフィスとしての大学
フューチャーセンター新次元開発と発信

わくわくポर्टランドツアー企画





■講師資料 フューチャーセッション

Shape your world



ハイパーネットワーク2017ワークショップ

私たちの地域の未来を紡ぐ フューチャーセッション

2017年1月13日
立命館アジア太平洋大学 平井達也



今日のイベントの目的

Shape your world



1. 私たちが住む地域の魅力を再発見する
2. 私たちの地域の理想の未来を描く
3. 理想の地域を実現するために、私たちがやってみたいことを計画する

今日のグラウンドルール

Shape your world



1. 年齢や立場の違いを超え、お互い対等に話そう
2. 正しい答えはない。思ったことを自由に共有しよう
3. お互いの体験や想いをていねいに聴き合おう
4. 意見の違いを尊重し、個人的な批判は控えよう
5. その他

Shape your world



1: アイスブレイク



小グループでお互いを知り合おう

Shape your world



1. できるだけ違う立場の人と2人一組をつくる
2. 次のスライドの項目を参考に、自己紹介をする(1人につき90秒)
 - メモをしても良いが、アイコンタクトも忘れずに
3. 自分のパートナーをグループメンバーに紹介する(1分ずつ)
 - パートナーを紹介する時に、相手について素敵だなと思ったところを1つ付け加える
4. 拍手をして次の人へ

自己紹介Questions

Shape your world



1. 呼んでほしい名前
2. 出身地と現在の居住地
3. 現在の仕事内容を簡単に
4. 今住んでいる地域のお気に入りの場所とその理由
5. 2016年でうれしかったこと
6. 2017年にぜひやってみたいこと

2: ハイポイント インタビュー



High-Point Interview

目的: 自分が住んでいる地域での心に残る体験について振り返り、地域の魅力を再発見する

1. インタビューシートを使いながら、相手の大切な体験についてインタビューをする
2. 10分したら役割交代
3. 相手の話の内容をグループメンバーに3分間で紹介し、相手の良いところを2つ付け加える

Let's Try Active Listening

1. まずは、相手に好奇心をもって
2. メモに集中しすぎずにアイコンタクトを心がけよう
3. うなずきやあいづちを適宜挟みながら
4. 時々聴いた内容を簡単に要約しながら
5. なによりも、笑顔でリラックスして

パートナーの話を紹介しよう

1. パートナーにとって地域での大切な体験の内容を3分間で紹介する
2. 紹介の最後に、パートナーについて素敵だなと思ったことを2つ付け加える(1分)
3. メンバーは話を聴きながら、その人を元気にする地域の魅力を見つけながら聴く
4. 紹介が終わったら、ふせん1枚につき1つの地域の魅力のキーワードやキーセンテンスをマジックで書き、合計2枚程度を相手に渡す(1分)
5. お礼を言って、次の人へ

インタビューを実施しよう

1. インタビューをどちらが先にするかを決めて下さい
2. では、最初のインタビューを始めましょう(10分)
3. 役割を交代して、インタビューをしましょう(10分)
4. パートナーをどのように紹介するかを考えておきましょう

パートナーの話を紹介しよう

1. パートナーの地域での大切な体験の内容を3分間で紹介する
2. 紹介の最後に、パートナーについて素敵だなと思ったことを2つ付け加える
3. メンバーは話を聴きながら、その人を元気にする地域の魅力を見つけながら聴く
4. 紹介が終わったら、ふせん1枚につき1つの地域の魅力のキーワードやキーセンテンスをマジックで書き、合計2枚程度を相手に渡す
5. お礼を言って、次の人へ

■講師資料 フューチャーセッション

アイデアを整理しよう

Shape your world



- 1.メンバー全員のキーワードを模造紙に貼る
- 2.KJ法の要領で、内容的類似に従って、ふせんをグループ分けして整理する

Shape your world



お昼休憩



Shape your world



3: 理想の地域の姿を描く



理想の地域をイメージしよう

Shape your world



- ・これから、あなたの住む地域がその魅力を最大限に発揮している状態をイメージしてみます。
1. イメージワークをする時間を10分ほど取ります。
 2. インストラクションに従って、心の中で自由に理想のあなたの地域をイメージしてみてください。
 3. 終わったら、少し静かな時間を取りますので、各自心の中に浮かんできたイメージをメモします。
 4. その後、グループでイメージを共有をします。

理想の地域をイメージしよう

Shape your world



- ・これから、私たちが実現したいと願う2030年の理想の地域の姿について探求します。よければゆっくりと目を閉じて、深呼吸をしてください。
- ・この理想の地域に住んでいる人々は、イキイキと幸せそうに生活をしています。この理想の地域はどんな様子ですか？どんな環境や資源があるのでしょうか？この地域に住む人々は、どんな表情で、どんなことを感じているのでしょうか？この地域ではどのような活動や交流が行われているのでしょうか？この地域は何を大切にしているのでしょうか？

理想の地域をイメージしよう

Shape your world



- ・国内・国外の様々な現場で、あなたの理想の地域の様子がテレビや新聞で特集され、報道されています。それはどのような内容ですか？できるだけビビッドにイメージしてみましょう。
- ・あなたの理想の地域には、県内、県外、国外から様々な人が地域の様子を見学に来たり、旅行で訪れたり、移住して来ています。どのような人々がやってきていますか？そして訪れた人は、あなたの地域に触れてどのような気持ちになっているのでしょうか？
- ・私たちの地域のありかたや活動によって、他の地方や地域に、日本に、そして世界に、一体どのような素晴らしい影響が広がっているのでしょうか？

■講師資料 フューチャーセッション

理想の地域をイメージしよう



1. これから少し静かな時間を取りますので、各自心の中に浮かんできたイメージを1つずつ、ふせんに書いていきましょう。(5分)
2. 出て来たイメージをグループで共有をします。ふせんを1枚ずつ模造紙に貼りながら、簡単にイメージの説明をしましょう。
3. 6人全員が貼り終えたら、似た内容のものは近くに置いて、整理しましょう。

理想の地域の姿を描き出そう



- ・ 未来編集会議
「2030年、皆さんの理想の地域の素晴らしさが紹介された新聞の一面」
 - 大見出し
 - 小見出し
 - 数値データ
 - インタビュー など
- ・ グループで話し合いながら、模造紙に記事を書いていく
- ・ 作成時間は20分
- ・ 隣のグループとペアを組み、1グループ3分ずつで発表

レイアウト例

理想の地域をイメージしよう



- ・ 次の問いについて、自分がやりたいことやアイデアをA4用紙に記入します
 - 今は2030年。あなたは「理想の地域実現プロジェクト」のコアメンバーとして10年以上かんはってきました。今回、あなたがどのように理想の地域を実現してきたのかについて、NHKからインタビューを受けることになりました。
 - 問い:あなたは理想の地域の実現のために、どのような活動やプロジェクト、工夫をみなさんと取り組んできましたか？
- ・ 各人が紙を見えるように掲げながら、部屋の中を歩き回ります
 - 次のいずれかの人たちと4~5人のチームを組めます
 - 1. 似たことを書いている人
 - 2. 一緒になると面白そうなアイデアが出てきそうそうな人
 - 3. 自分の書いたものを捨ててもいいと思える案を書いている人

理想の地域を実現するために



1. 新しいグループ内で簡単に自己紹介(名前、出身、住んでいる地域の好きなどところ)をする
2. 一緒に集まったアイデア(理想の地域を実現する工夫や活動、プロジェクト)について話し合い、より具体的にする(20分)
 1. 何を大切にしたい活動か
 2. その活動をどのように始めたいか
 3. 第2、第3のステップは何か
 4. どうすれば関わる人々が楽しく主体的に参加できるか、など
3. グループ内で出て来たアイデアを模造紙にまとめていきましょう(10分)
4. 各グループ3分間で理想の地域の実現方法を発表しましょう!

理想の地域を実現するために



- ・ 次の問いについて、自分がやりたいことやアイデアをA4用紙に記入します
 - 問い:あなたの理想の地域の未来を実現するために、あなたが誰かとやってみたい活動は何ですか？
- 1. 一緒に集まったアイデア(理想の地域を実現する工夫や活動、プロジェクト)について話し合い、より具体的にする(20分)
 1. 何を大切にしたい活動か
 2. その活動をどのように始めたいか
 3. 第2、第3のステップは何か
 4. どうすれば関わる人々が楽しく主体的に参加できるか、など
- 2. グループ内で出て来たアイデアを模造紙にまとめていきましょう(10分)
- 3. 各グループ3分間で理想の地域の実現方法を発表しましょう!

ハイパーネットワーク2017
ワークショップ

私たちの地域の未来を紡ぐ

参加無料

フューチャー
セッション

2017年1月13日（金）

大分県消費生活・男女共同参画プラザ
（アイネス）

大分市東春日町1番1号 Ns大分ビル

主催:ハイパーネットワークワークショップ実行委員会
大分県 NTT西日本 大分支店 日本電気株式会社
富士通株式会社 (公財)ハイパーネットワーク社会研究所



ワークショップ

人口減少・高齢化や都市部への人口流出、地域の活力低下等の**地域が抱える問題**は、地理的、人的、歴史的な要因が複雑に絡み合い、当事者や専門家だけでは解決することが難しくなっています。

このような複雑な問題への解決のアプローチとして、**多様なステークホルダー**が、**未来志向**で「新しい関係性」と「新しいアイデア」を創り出し、協力してアクションを起こせる状況を生み出す（「新たな価値」の創造の場）「**フューチャーセッション**」が注目を浴び、広がりをみせています。

今回で17回目を迎えるハイパーネットワークワークショップでは、地域を構成する市民・企業・教育機関・自治体・NPO等の**多様なステークホルダー**が**地域の複雑な問題**に対し、**未来思考**で対話の中から解決の糸口を探る、「**フューチャーセッション**」を開催します。



スピーカー/ファシリテーター

プラチナ構想ネットワーク



エコで高齢者も参加でき、地域で人が育ち、雇用のある、快適な社会を目指したワンランク上のまちづくりを進める全国規模の産学官連携組織。

プラチナ構想実現のための政策的課題の解決策を政界、産業界、市民に発信し、動きを促すことを目的として活動中。

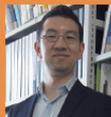
徳島大学 大学院教授/地域創生センター長 **吉田 敦也**

徳島大学に国立大学初のフューチャーセンターを設立し、新しいアプローチで社会課題解決のイノベーションプラットフォームを提供。

全米で最も環境に優しく住みやすい都市とも言われ、注目を集めるポートランドの街づくりを研究。



立命館アジア太平洋大学 教育開発・学修支援センター 准教授



平井 達也

専門分野は、キャリア教育・リーダーシップ教育・国際教育・ポジティブ心理学など。

心理学や組織開発などの知見を活用しながら、大学や企業、地域などを対象にエンパワーメントをテーマとしたプログラム開発やファシリテーションも行っている。



プログラム

9:30~11:00 第1部 **レクチャー**（定員100名）

スピーカー：① **プラチナ構想ネットワーク**

② 徳島大学 **吉田 敦也** 教授

11:00~16:30 第2部 **フューチャーセッション**（定員60名）

ファシリテーター：立命館アジア太平洋大学 **平井 達也** 准教授

17:00~ ネットワーキングパーティー【有料】



参加申込み

<http://www.hyper.or.jp/ws2017>

- ・上記 Web 内より申込みください
- ・申込〆切:1月11日(水)15時まで
- ・定員に達した次第、参加申込みを締め切ります



お問合せ

(公財)ハイパーネットワーク社会研究所

〒870-0037 大分県大分市東春日町51-6

Tel.097-537-8180 Fax.097-537-8820

E-mail ws2017@hyper.or.jp(お問合せ用)

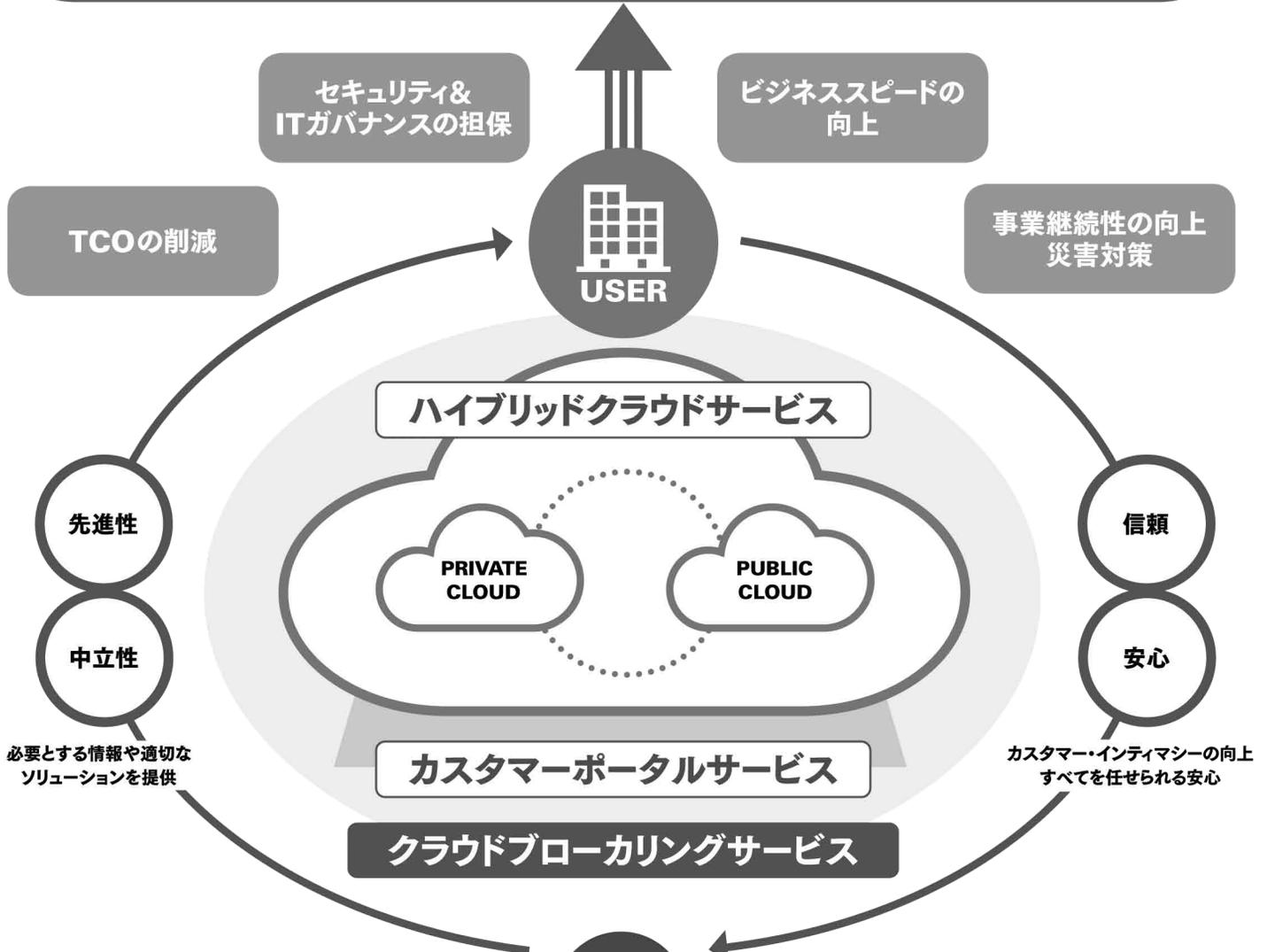
◆メッセージ

私たちの生活の舞台（=地域）は、私たち自身でより良くできるはずです。

地域を構成する多様な人々（ステークホルダー）と地域の魅力を見つめ直し、一緒に私たちの地域の未来を考えてみませんか？

経営戦略はICTと人で決まります。

ビジネスチャンスの拡大



ネットワークのプロなら、こんなことが実現可能です。

- 顧客満足度の向上やビジネスチャンスの拡大のために ICT 基盤を整えることはすでに常識となっています。これから必要なことは「経営戦略としての ICT」。企業理念に則してビジネスの質を高めていく新しいアプローチです。世界の先進企業が注目し積極的に採り入れる理由はここにあります。
- 限られた予算で効果を最大化する「Do More with Less」も重要な命題のひとつ。ICT 基盤の拡充をはかりつつ、運用コストや TCO を削減する。この相反するふたつの要素をバランスよく実現するのが、ネットワンの「クラウドブローカリングサービス」です。ハイブリッドクラウドをはじめとするシステ

ム全体を最先端ネットワーク技術で最適化 & 高効率化。ポータル上での一元管理により、面倒な管理・運用から顧客企業を解放します。

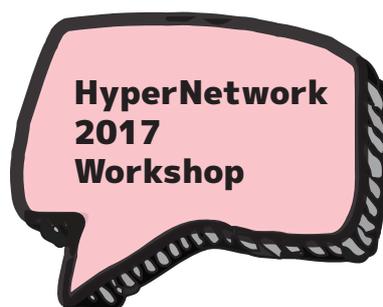
- クラウド、SaaS などの登場により日々複雑さを増していくネットワーク。ハイブリッドクラウドのスピードや処理能力を最大限まで引き出すためには、システムの全体構造を知り尽くすことが必要不可欠です。ネットワンはネットワーク基盤を長年手がけてきた技術力、マルチベンダーならではの客観的視点により、つねにベストな提案を約束します。
- IoT 時代の企業はどうあるべきか。いま問われているのは企業のあり方、理念そのものだと思います。そんな時代だからこそネットワンは「ネットワークの匠」として信頼できるパートナーでありたい。お客様との対話を大事にしながら、マルチクラウド環境下でのビジネスの拡大を支援させていただきます。

クラウドビルダー  クラウドブローカー



ネットワーク業界 No.1
マルチベンダー & ネットワークインテグレーター

※「net one」の名称およびロゴは、ネットワンシステムズ株式会社の商標または登録商標です。



**HyperNetwork
2017
Workshop**